

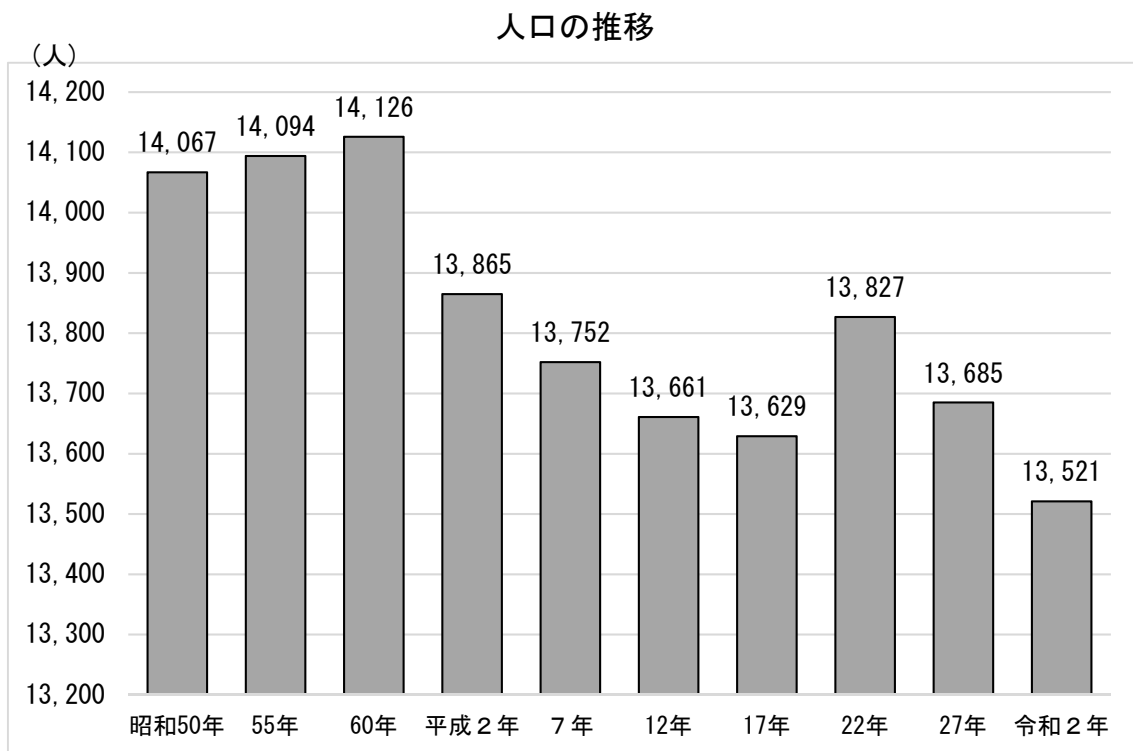
第2章 嘉手納町の現状

1 嘉手納町の概況

(1) 人口の動向

① 人口の推移

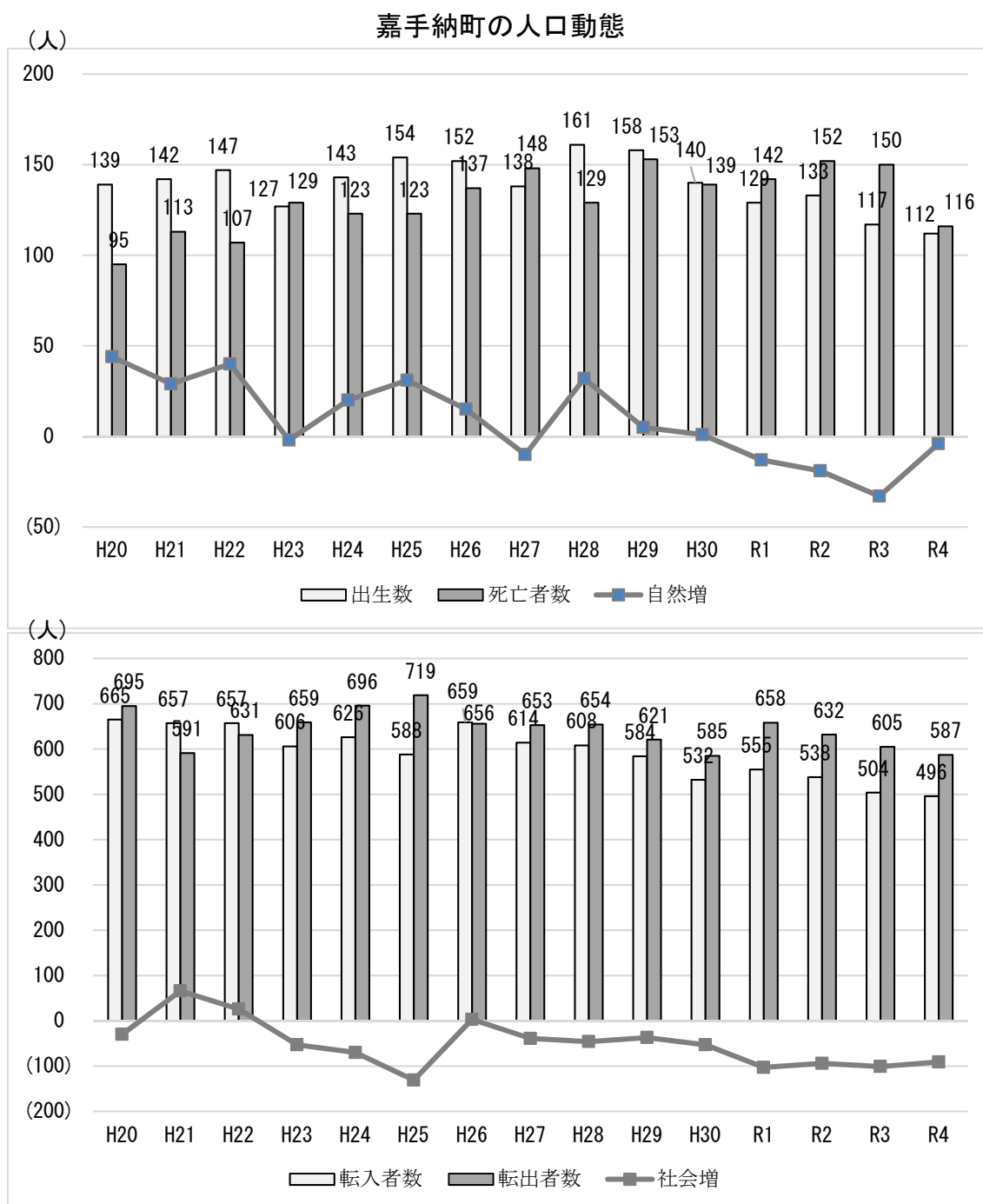
令和2年における本町の人口は13,521人となっており、最も人口が多かった昭和60年の14,126人と比較すると、605人の減少となっています。また、5年間の減少数に注目すると、平成27年から令和2年までの5年間には164人が減少しており、昭和60年から平成2年にかけて記録された261人の減少幅に次いで大きな減少幅となっています。



資料：国勢調査

② 人口動態

人口動態をみると、自然動態は、平成30年までは概ねいずれの年も出生数が死亡数を上回っていたものの、令和元年以降は、連続して死亡数が出生数を上回っています。社会動態は、概ねいずれの年も転出者数が転入者数を上回っており、令和元年以降は社会増のマイナスが100名程度で推移しています。



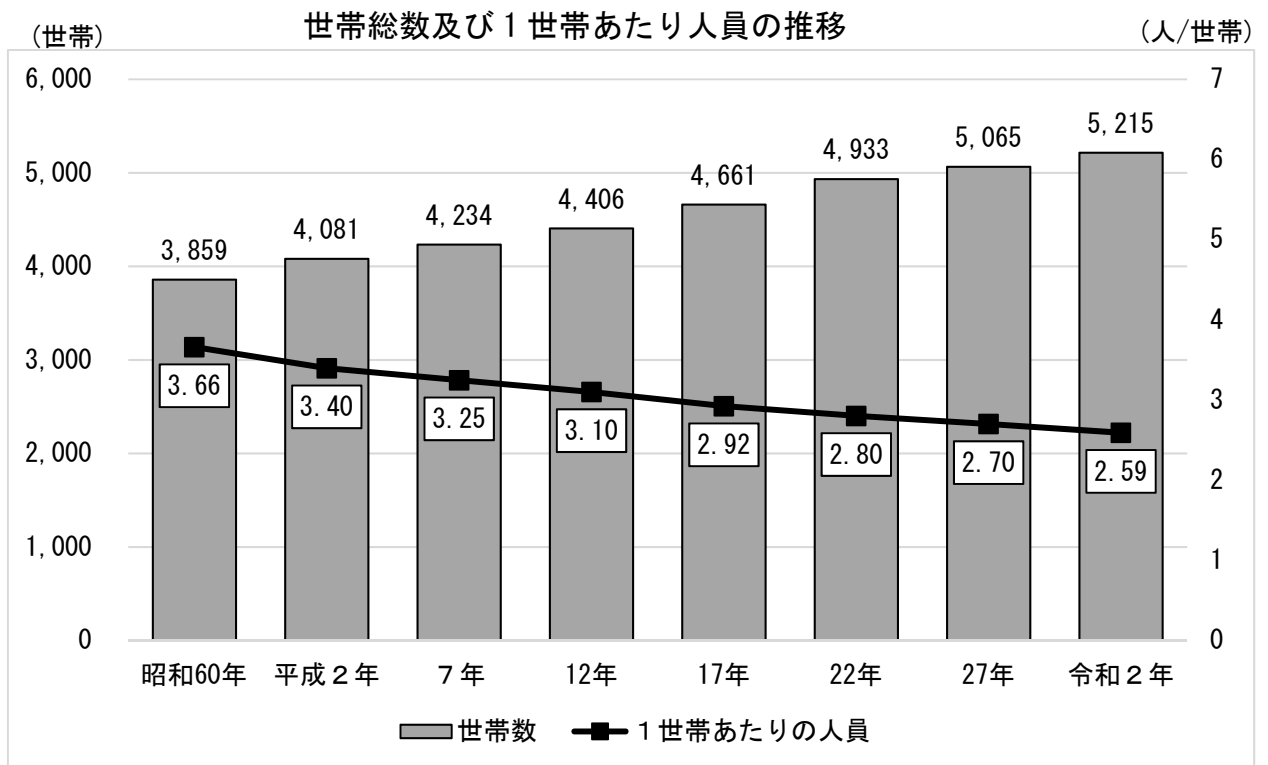
資料：沖縄県_長期時系列統計データ

(2) 世帯の動向

世帯の動向をみると、世帯総数は昭和60年から令和2年まで、増加し続けていますが、増加の幅は小さくなってきています。また、1世帯あたり人員は減少する傾向にあり、令和2年時点で、2.59人まで減少しています。

平成7年からの世帯構成の推移をみると、核家族世帯は減少傾向にあり、代わって単独世帯が増加傾向にあります。構成比も平成7年の19.0%から令和2年では32.3%に上昇しました。

そのうち、高齢者単独世帯についても著しく増加を続けており、単独世帯に占める割合は、平成7年の28.6%に対して、令和2年では42.7%となっています。三世帯世帯は緩やかな減少傾向にあります。



資料：国勢調査

世帯構成の推移

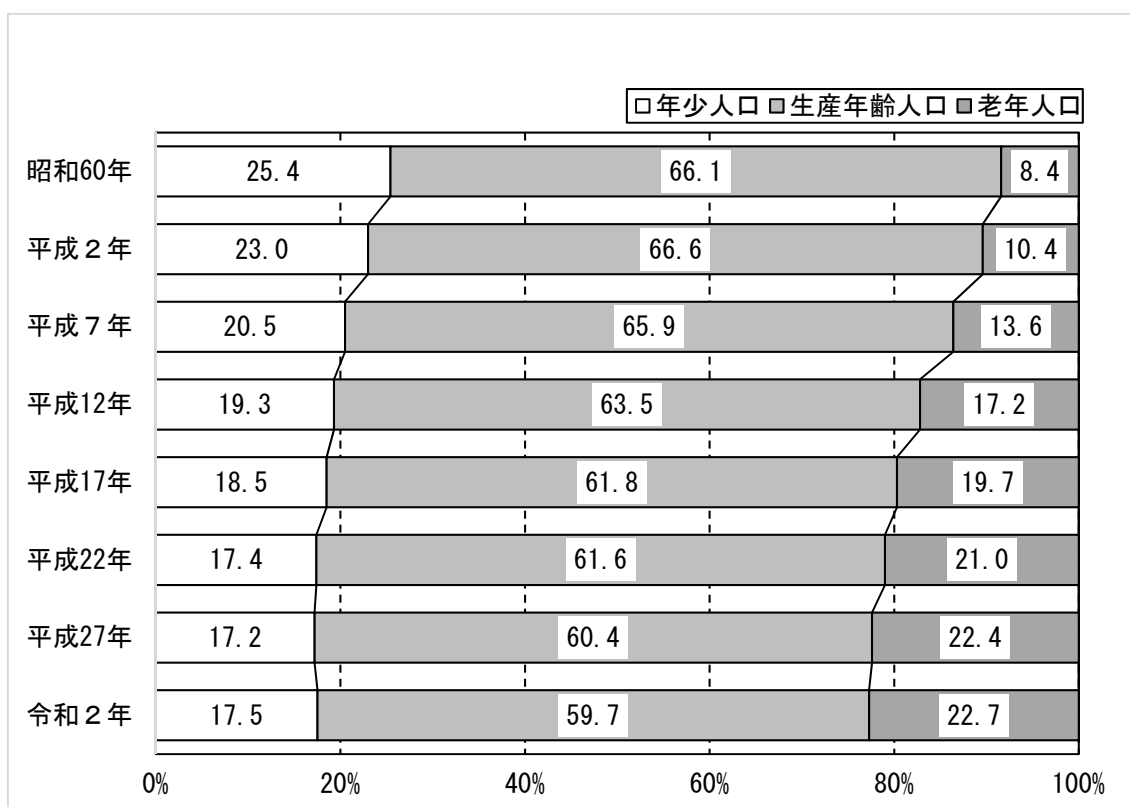
	H7年		12年		17年		22年		27年		R2年	
	世帯数	構成比	世帯数	構成比	世帯数	構成比	世帯数	構成比	世帯数	構成比	世帯数	構成比
核家族世帯	2,888	68.2	2,909	66.0	2,969	63.7	3,056	62.0	3,130	61.8	3,024	58.0
夫婦のみの世帯	473	11.2	545	12.4	557	12.0	638	12.9	630	12.4	625	12.0
夫婦と子ども世帯	1,786	42.2	1,705	38.7	1,640	35.2	1,594	32.3	1,585	31.3	1,521	29.2
片親と子ども世帯	629	14.9	659	15.0	772	16.6	824	16.7	915	18.1	878	16.8
単独世帯	803	19.0	947	21.5	1,151	24.7	1,300	26.4	1,390	27.4	1,687	32.3
高齢者単独世帯	230	5.4	345	7.8	442	9.5	517	10.5	605	11.9	721	13.8
単独世帯に占める高齢者単独世帯の割合	28.6		36.4		38.4		39.8		43.5		42.7	
三世帯世帯	254	6.0	237	5.4	186	4.0	159	3.2	256	5.1	218	4.2
世帯総数	4,234	100.0	4,406	100.0	4,661	100.0	4,933	100.0	5,065	100.0	5,215	100.0

資料：国勢調査

(3) 年齢構成

国勢調査より年齢3区別人口の構成比の推移をみると、年少人口比率(0～14歳)及び生産年齢人口(15～64歳)は減少傾向、老年人口比率(65歳以上)は増加傾向にあり、少子高齢化が進んでいます。

年齢3区分人口構成比の推移



資料：国勢調査

(4) 高齢化率

令和2年の国勢調査における本町の高齢化率は24.2%で、中部地区11市町村の中では、金武町の27.8%、宜野座村の25.6%に次いで、3番目に高い数値となっています。

また、高齢者全体に占める後期高齢者(75歳以上)の割合は53.7%で、中部地区11市町村の中で最も高い数値となっています。

中部地区市町村の高齢者数及び高齢化率

中部市町村	高齢化率	65歳以上 人口	前期高齢者人口	後期高齢者人口	構成比(%)	
					前期高齢者	後期高齢者
うるま市	22.4	28,050	14,854	13,196	53.0	47.0
宜野湾市	18.9	18,925	9,956	8,969	52.6	47.4
沖縄市	20.2	28,854	15,133	13,721	52.4	47.6
恩納村	24.1	2,621	1,381	1,240	52.7	47.3
宜野座村	25.6	1,491	767	724	51.4	48.6
金武町	27.8	3,006	1,426	1,580	47.4	52.6
嘉手納町	24.2	3,273	1,517	1,756	46.3	53.7
読谷村	22.0	9,050	4,727	4,323	52.2	47.8
北谷町	20.4	5,765	2,958	2,807	51.3	48.7
北中城村	23.9	4,294	2,047	2,247	47.7	52.3
中城村	18.6	4,113	2,128	1,985	51.7	48.3

資料：国勢調査(令和2年)

(5) 就業別就業者数

令和2年の国勢調査から産業別就業者数の構成比をみると、第三次産業が83.2%と圧倒的に高く、次いで第二次産業が15.9%、第一次産業が1.0%となっています。

沖縄県の構成比と比較すると、第一次産業の割合が小さくなっています。

就業構造

	平成27年		令和2年		沖縄県(令和2年)	
		構成比		構成比		構成比
就業者総数	5,403	100.0	5,004	100.0	577,419	100.0
第一次産業	61	1.1	48	1.0	23,267	4.0
A 農業, 林業	56	1.0	42	0.8	20,949	3.6
B 漁業	5	0.1	6	0.1	2318	0.4
第二次産業	859	15.9	795	15.9	79,353	13.7
C 鉱業, 採石業, 砂利採取業	3	0.1	3	0.1	289	0.1
D 建設業	648	12.0	614	12.3	52,022	9.0
E 製造業	208	3.8	178	3.6	27,042	4.7
第三次産業	4,483	83.0	4,161	83.2	474,799	82.2
F 電気・ガス・熱供給・水道業	25	0.5	20	0.4	3,096	0.5
G 情報通信業	73	1.4	78	1.6	14,375	2.5
H 運輸業, 郵便業	152	2.8	140	2.8	25,594	4.4
I 卸売業, 小売業	767	14.2	679	13.6	81,655	14.1
J 金融業, 保険業	61	1.1	64	1.3	11,040	1.9
K 不動産業, 物品賃貸業	133	2.5	120	2.4	13,445	2.3
L 学術研究, 専門・技術サービス業	113	2.1	121	2.4	18,500	3.2
M 宿泊業, 飲食サービス業	472	8.7	398	8.0	46,677	8.1
N 生活関連サービス業, 娯楽業	285	5.3	285	5.7	22,007	3.8
O 教育, 学習支援業	239	4.4	244	4.9	33,978	5.9
P 医療, 福祉	653	12.1	683	13.6	90,530	15.7
Q 複合サービス事業	40	0.7	35	0.7	4,924	0.9
R サービス業(他に分類されないもの)	623	11.5	597	11.9	49,805	8.6
S 公務(他に分類されるものを除く)	300	5.6	288	5.8	35,800	6.2
T 分類不能の産業	547	10.1	409	8.2	23,373	4.0

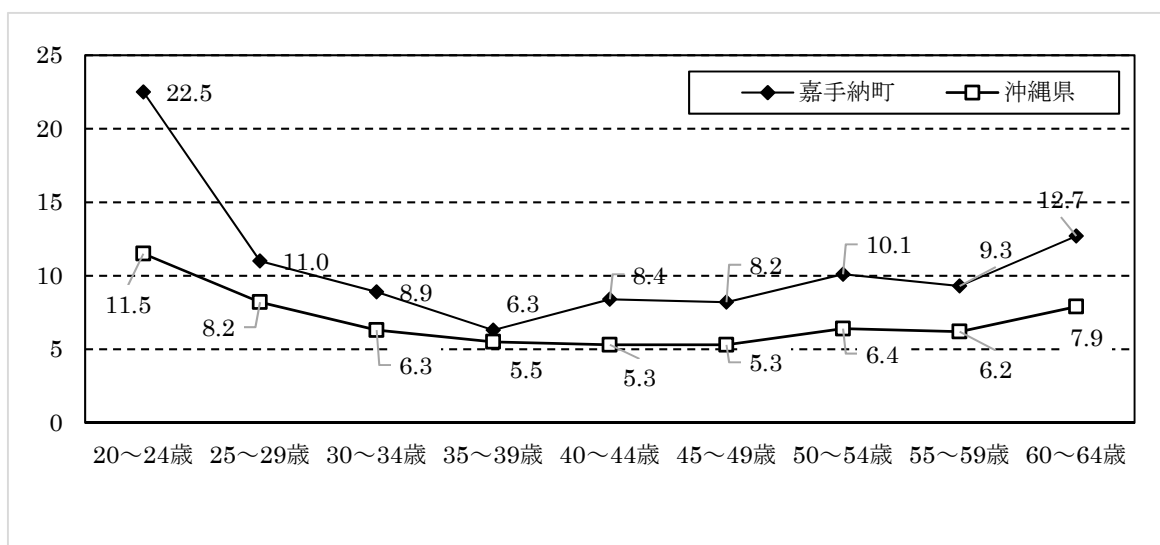
資料：国勢調査

(6) 完全失業率

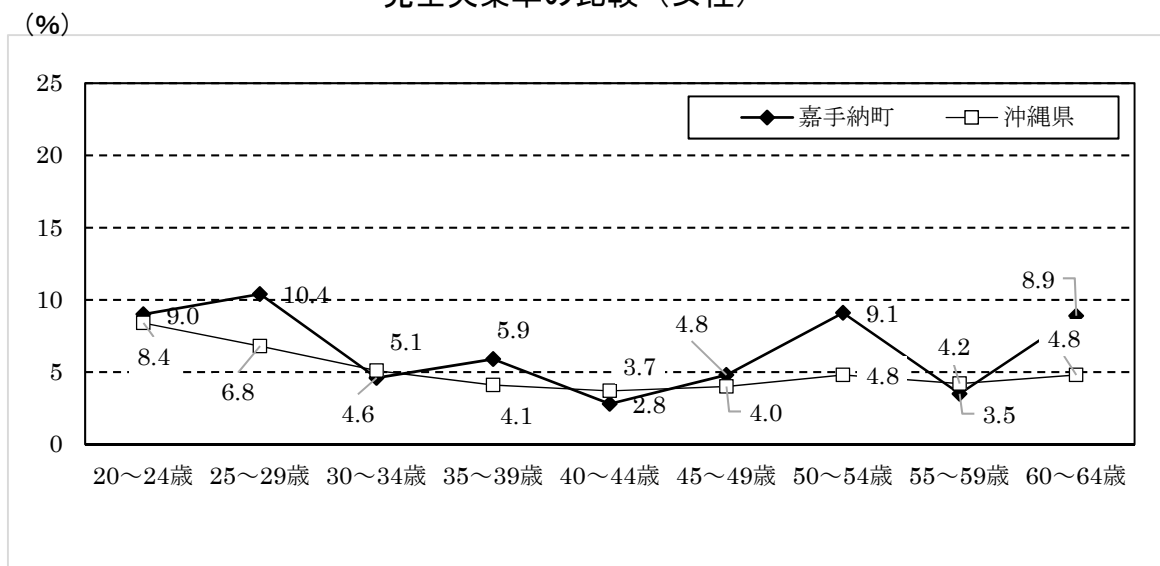
令和2年の国勢調査より、嘉手納町と沖縄県の完全失業率を男女別で比較すると、男性の場合はどの年代も嘉手納町が高くなっておりますが、35～39歳に関しては差が最も小さくなっています。

女性の場合は年代によって嘉手納町の方が高いところ、沖縄県の方が高いところと別れており、50～54歳が最も差が大きくなっています。

(%) 完全失業率の比較（男性）



完全失業率の比較（女性）



資料：国勢調査（令和2年）

(7) 飲食店数

令和3年時点の人口千人あたりの飲食店数をみると、本町は6.6店舗で、中部地区11市町村の中では、北谷町、金武町に次いで3番目に高くなります。

飲食店数

自治体名	飲食店	管理・補助的経済活動を行う事業所	食堂・レストラン （専門料理店を除く）	専門料理店					その他の専門料理店	そば・うどん店	すし店	酒場・ビヤホール	バー・キャバレー・ナイトクラブ	喫茶店	その他の飲食店	ハンバーガー店	お好み焼・焼きそば・たこ焼店	他に分類されない飲食店	人口千人あたり飲食店
				専門料理店	日本料理店	中華料理店	焼肉店												
沖縄県	8,522	27	665	1,819	727	283	194	615	171	133	2,250	2,385	748	324	132	41	151		
宜野湾市	464	4	36	86	28	16	12	30	4	2	138	148	32	14	6	2	6	5.1	
沖縄市	744	4	51	137	44	21	13	59	10	6	181	269	57	29	11	5	13	5.8	
うるま市	539	1	34	77	32	18	10	17	2	4	135	227	39	20	8	3	9	4.8	
恩納村	56	-	7	27	15	1	3	8	4	1	11	1	2	3	-	-	3	5.5	
宜野座村	16	-	2	1	1	-	-	-	1	-	9	2	1	-	-	-	-	3.7	
金武町	87	1	12	16	4	3	1	8	-	-	10	40	4	4	-	-	4	8.3	
読谷村	124	-	6	36	15	2	4	15	1	-	30	38	11	2	1	-	1	3.3	
嘉手納町	76	-	6	10	3	2	1	4	2	1	20	25	7	5	4	-	1	6.6	
北谷町	246	-	13	107	27	10	12	58	5	11	43	18	23	26	10	3	13	9.1	
北中城村	92	-	6	41	12	6	2	21	3	1	10	2	19	10	4	1	5	5.6	
中城村	29	1	4	11	4	3	1	3	2	1	6	1	3	-	-	-	-	1.6	

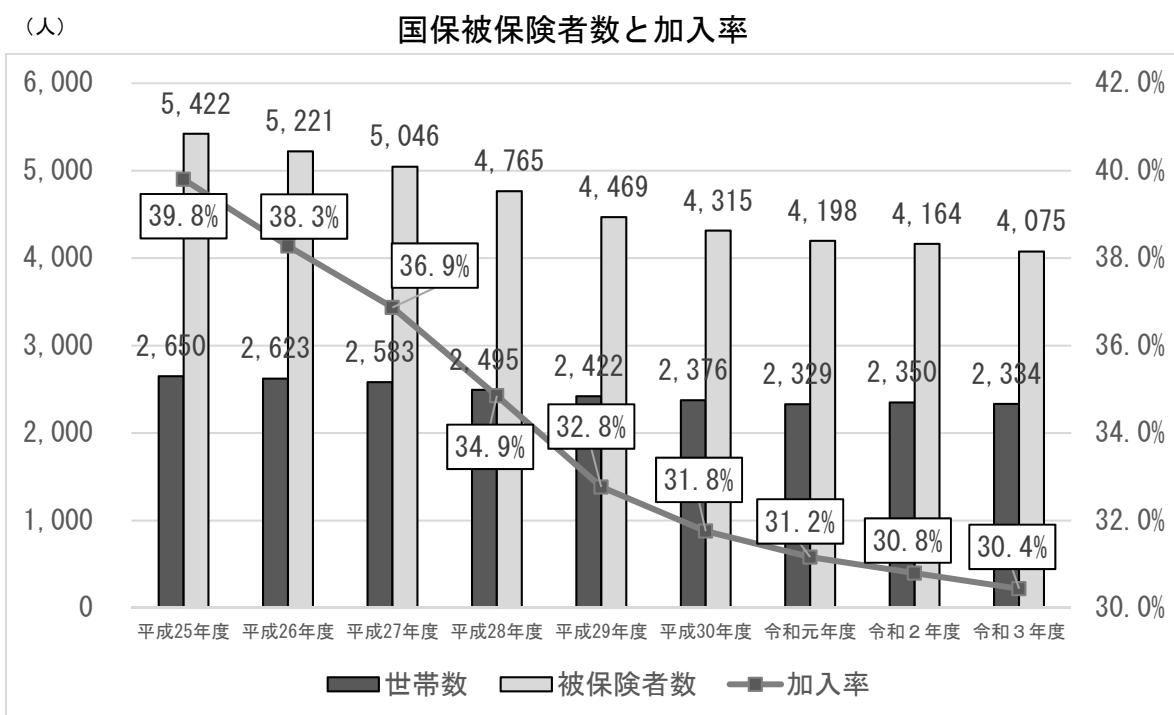
資料：沖縄県統計年鑑（令和3年10月）、経済センサス（令和3年6月）

人口千人あたりの算出は、飲食店数÷各地区総人口×1000

(8) 医療費の状況

① 国民健康保険被保険者数（各年度3月末現在）

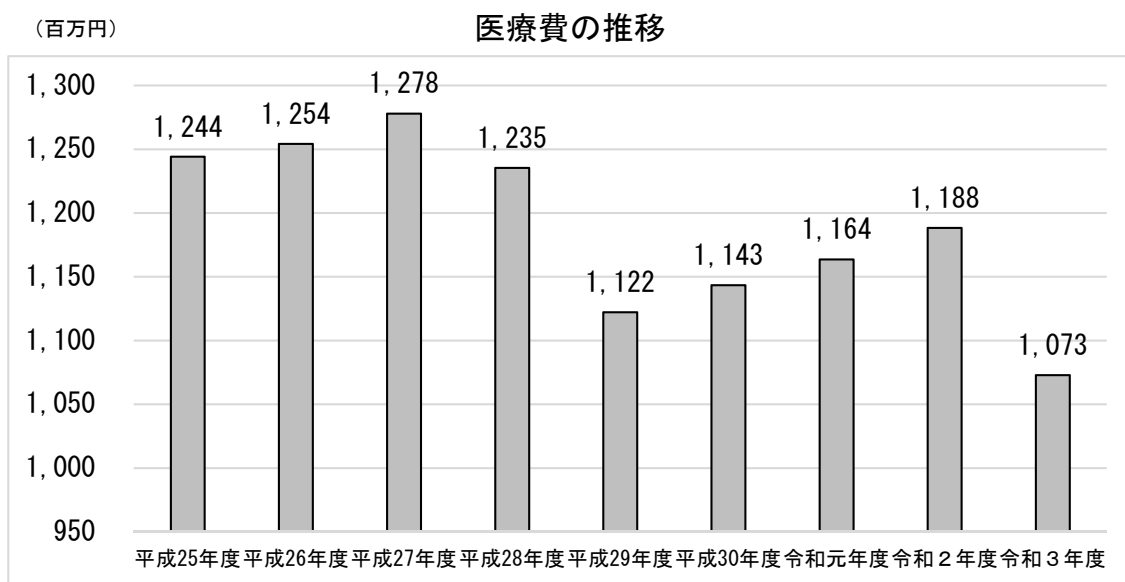
国民健康保険被保険者数（一般と退職の合計）は毎年減少しており、同様に加入率についても減少しています。



資料：嘉手納町

② 国民健康保険医療費

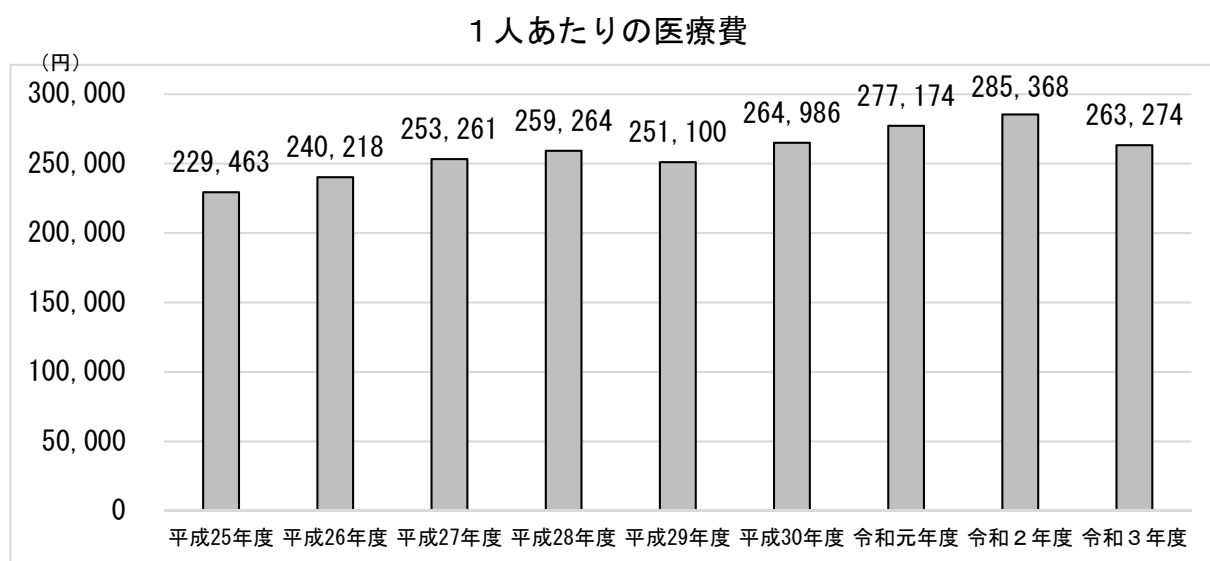
医療費（一般と退職の合計）は、平成25年度から令和3年度にかけて増加と減少を繰り返しており、令和3年度は過去9年間で最も少なくなっています。



資料：嘉手納町

③ 一人あたりの医療費

国民健康保険被保険者における1人あたりの医療費（一般と退職の合計）は、平成25年度以降微増傾向にあります。



※国民健康保険被保険者数は年度平均を使用。

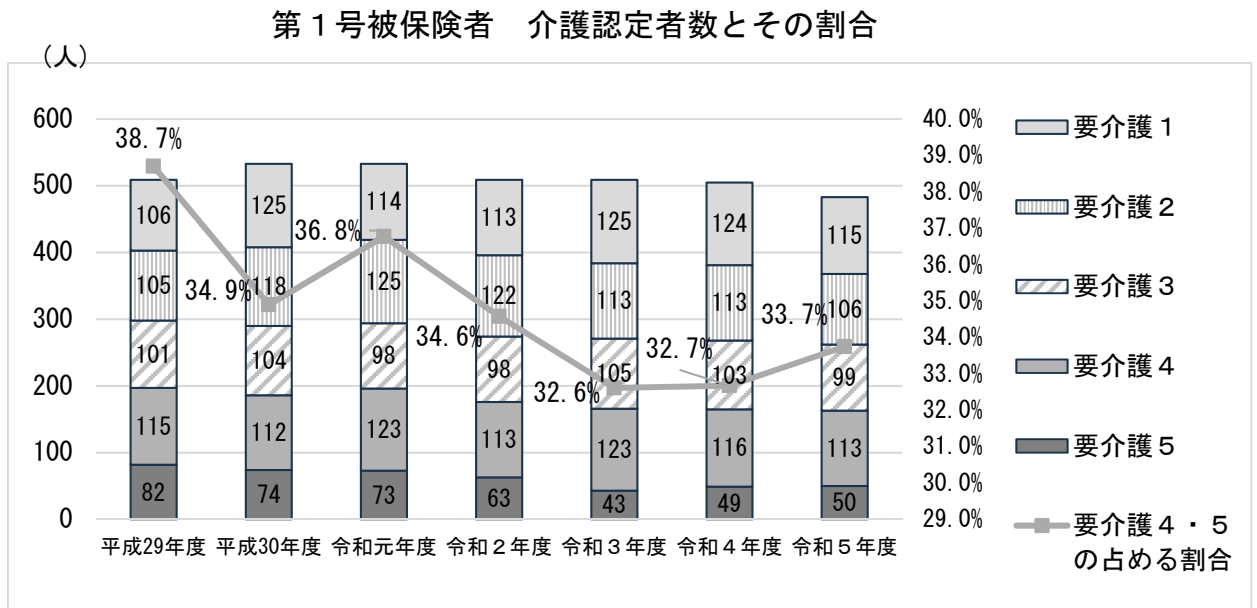
資料：嘉手納町

(9) 介護保険の状況

① 第1号被保険者（65歳以上）

令和5年度の第1号被保険者の介護認定者数は483人となっており、過去7年間で微減傾向を示しています。

要介護4・5の占める割合は平成29年度から減少傾向となっています。

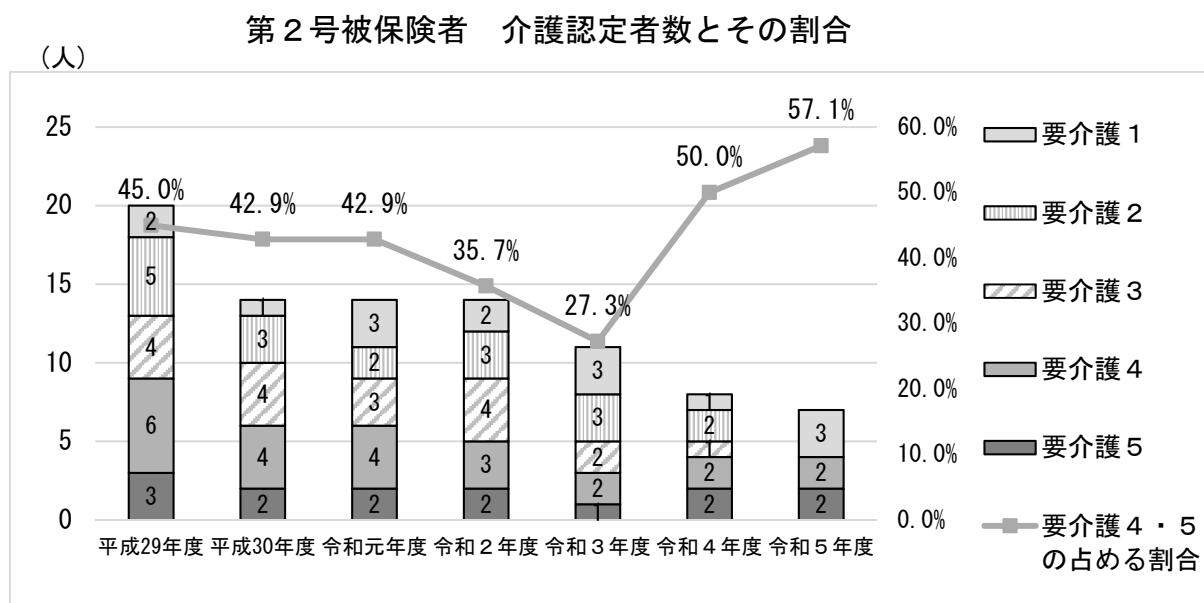


資料：嘉手納町

② 第2号被保険者（40歳以上65歳未満）

第2号被保険者の介護認定者数は減少傾向になっています。

ただし、要介護4・5の占める割合については平成29年度から増加傾向にあります。



資料：嘉手納町

(10) 主な死亡原因

本町の2018年から2022年までの男性の死亡原因の中で、全国平均と比較した際に特に多い死因は「老衰」「脳血管疾患」「脳内出血」等となっています。

また沖縄県平均と比較すると、上記に加えて「悪性新生物」も、多くの人が亡くなる原因となっています。

主要死因別標準化死亡比等（2018年－2022年） 男性

項目	死亡数	対 全国（全国=100）			対 沖縄県（沖縄県=100）		
		期待死亡数	SMR	過剰死亡数	期待死亡数	SMR	過剰死亡数
死亡総数	363	355.7	102	7.3	354.9	102.3	8.1
結核	-	0.6			0.6		
悪性新生物	102	104.6	97.5	-2.6	96.3	105.9	5.7
食道	9	4.2	212.6	4.8	3.5	256.9	5.5
胃	11	13.1	84.1	-2.1	7.7	142.7	3.3
大腸	13	13.1	99.1	-0.1	14.5	89.9	-1.5
結腸	4	8.5	47.1	-4.5	9.6	41.5	-5.6
直腸S状結腸移行部及び直腸	9	4.6	194.9	4.4	4.8	186.3	4.2
肝及び肝内胆管	11	7.8	141.9	3.2	6.8	161.5	4.2
胆のう及びその他の胆道	5	4.5	111.2	0.5	4.9	101.3	0.1
膵	6	8.8	68.2	-2.8	6.5	92.4	-0.5
気管、気管支及び肺	20	24.9	80.4	-4.9	23.1	86.6	-3.1
白血病	2	2.6	76.5	-0.6	3.8	52	-1.8
糖尿病	3	3.9	77.8	-0.9	5.5	54.9	-2.5
高血圧性疾患	4	2.1	189.6	1.9	3.7	108	0.3
心疾患（高血圧性除く）	47	50.3	93.4	-3.3	46.6	100.8	0.4
虚血性心疾患	22	19.8	111.1	2.2	20.3	108.6	1.7
急性心筋梗塞	10	8.9	112.4	1.1	9	110.9	1

項目	死亡数	対 全国 (全国=100)			対 沖縄県 (沖縄県=100)		
		期待 死亡数	SMR	過剰 死亡数	期待 死亡数	SMR	過剰 死亡数
その他の虚血性 心疾患	12	10.9	110	1.1	11.3	106.7	0.7
不整脈及び伝導 障害	3	7.9	37.9	-4.9	5.4	55.9	-2.4
心不全	12	17.7	67.8	-5.7	12.1	99	-0.1
脳血管疾患	34	25.2	134.8	8.8	27	126.1	7
くも膜下出血	3	2	146.4	1	2.3	131.5	0.7
脳内出血	16	8.7	184.5	7.3	10.6	151.3	5.4
脳 梗 塞	15	13.8	108.4	1.2	13.2	113.2	1.8
大動脈瘤及び解離	4	4.7	85.8	-0.7	4.7	85.9	-0.7
肺炎	17	23.5	72.3	-6.5	17.9	95.1	-0.9
慢性閉塞性肺疾患	7	7	100.7	0	7.9	89.1	-0.9
喘 息	-	0.2			0.4		
肝疾患	11	5.6	195.2	5.4	11.1	98.9	-0.1
腎不全	4	7.1	56.1	-3.1	6.6	60.9	-2.6
老衰	31	19.6	158.6	11.4	18.4	168	12.6
不慮の事故	7	11.3	62	-4.3	9.1	77.2	-2.1
交通事故	1	1.3	74.2	-0.3	1.4	71.9	-0.4
自殺	7	6.9	101.5	0.1	8.2	85.7	-1.2

資料：沖縄県標準化死亡比（SMR）～2018-2022～

本町の 2018 年から 2022 年までの女性の死亡原因の中で、全国平均と比較した際に特に多い死因は「交通事故」「老衰」「慢性閉塞性肺疾患」等となっています。

なお、これらはいずれも、沖縄県平均と比較しても、多くの方が亡くなる原因となっています。

主要死因別標準化死亡比等（2018 年－2022 年）女性

項目	死亡数	対 全国（全国=100）			対 沖縄県（沖縄県=100）		
		期待死亡数	SMR	過剰死亡数	期待死亡数	SMR	過剰死亡数
死亡総数	357	361.6	98.7	-4.6	344.8	103.5	12.2
結核	-	0.4			0.6		
悪性新生物	74	77.9	95	-3.9	72.1	102.6	1.9
食道	1	1	100.5	0	0.6	167.4	0.4
胃	4	7.3	54.6	-3.3	3.8	105	0.2
大腸	11	12.1	91.3	-1.1	11.5	96	-0.5
結腸	9	9.2	97.8	-0.2	9.1	98.5	-0.1
直腸S状結腸移行部及び直腸	2	2.9	70.2	-0.9	2.3	86.2	-0.3
肝及び肝内胆管	4	4.2	95.8	-0.2	3.4	119	0.6
胆のう及びその他の胆道	3	4.3	69.9	-1.3	4	75.1	-1
膵	5	9.1	55.1	-4.1	7	71.1	-2
気管、気管支及び肺	11	10.9	100.6	0.1	9.3	118.4	1.7
白血病	6	7.3	82.3	-1.3	7.2	82.9	-1.2
糖尿病	7	3.4	208.1	3.6	4.7	148.8	2.3
高血圧性疾患	5	1.7	287.4	3.3	3.5	141.8	1.5
心疾患（高血圧性除く）	7	3.3	213.6	3.7	4	174.9	3
虚血性心疾患	6	3.2	190.4	2.8	4.9	122	1.1
急性心筋梗塞	38	58.8	64.6	-20.8	49.4	77	-11.4

項目	死亡数	対 全国 (全国=100)			対 沖縄県 (沖縄県=100)		
		期待死亡数	SMR	過剰死亡数	期待死亡数	SMR	過剰死亡数
その他の虚血性心疾患	10	14.3	69.8	-4.3	12.9	77.5	-2.9
不整脈及び伝導障害	7	6.7	103.7	0.3	6.7	104.6	0.3
心不全	3	7.6	39.6	-4.6	6.2	48.3	-3.2
脳血管疾患	7	8.6	81.4	-1.6	6.6	106.7	0.4
くも膜下出血	18	28.5	63.2	-10.5	18.7	96.5	-0.7
脳内出血	22	28.2	78	-6.2	26.2	83.9	-4.2
脳梗塞	3	3.6	83.4	-0.6	3.5	85	-0.5
大動脈瘤及び解離	11	7.5	147.1	3.5	8.3	132.8	2.7
肺炎	8	16.4	48.9	-8.4	13.3	60	-5.3
慢性閉塞性肺疾患	10	4.8	207.6	5.2	6.1	162.9	3.9
喘息	12	19.3	62.3	-7.3	13.2	90.7	-1.2
肝疾患	3	1.5	204.6	1.5	2.4	126.6	0.6
腎不全	2	0.4	491.6	1.6	1.1	179.2	0.9
老衰	9	3	295.4	6	5	178.5	4
不慮の事故	5	7.1	70.8	-2.1	7.9	63.4	-2.9
交通事故	88	55.9	157.4	32.1	51.8	170	36.2
自殺	8	8.8	91	-0.8	5.3	149.7	2.7

資料：沖縄県標準化死亡比（SMR）～2018-2022～

※ 標準化死亡比（SMR）とは、人口構成の違いを除去して死亡率を比較するための指標です。ここでは、沖縄県の平均を100としており、標準化死亡比が100以上の場合は沖縄県平均よりも死亡率が高いと判断され、100以下の場合は死亡率が低いということになります。

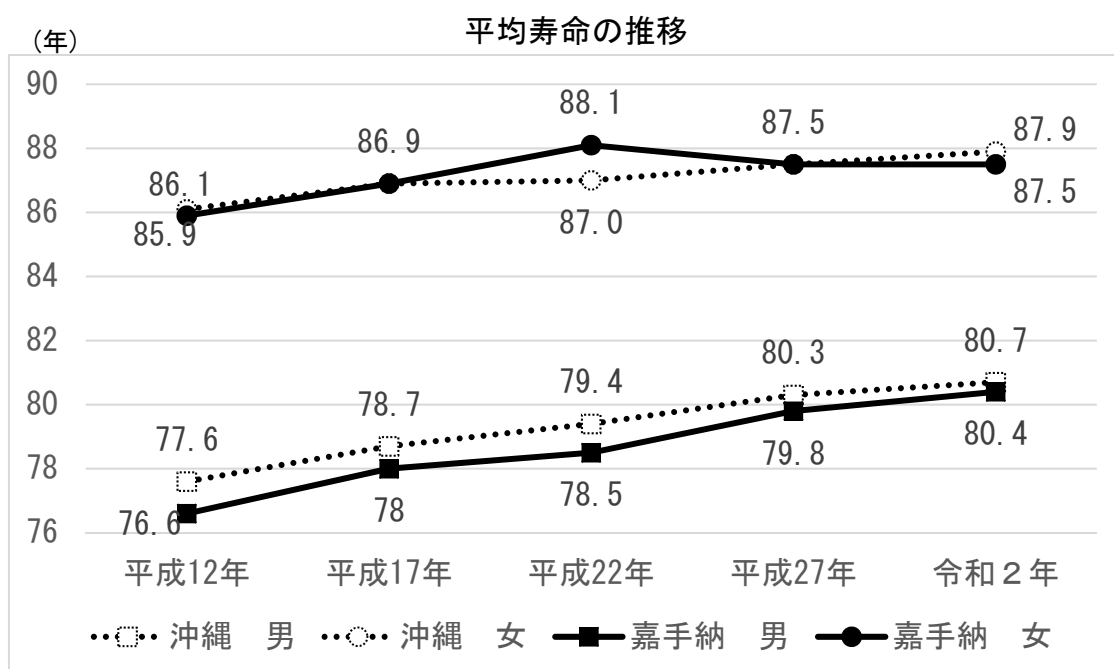
(11) 平均寿命

① 平均寿命の推移

本町の平均寿命は男女ともに延びています。

令和2年の平均寿命は、男性が80.4年と沖縄県より0.3年下回り、女性も87.5年と沖縄県より0.4年下回っています。

平均寿命の男女差は7.1年もひらきがありますが、その差は年々縮まっています。

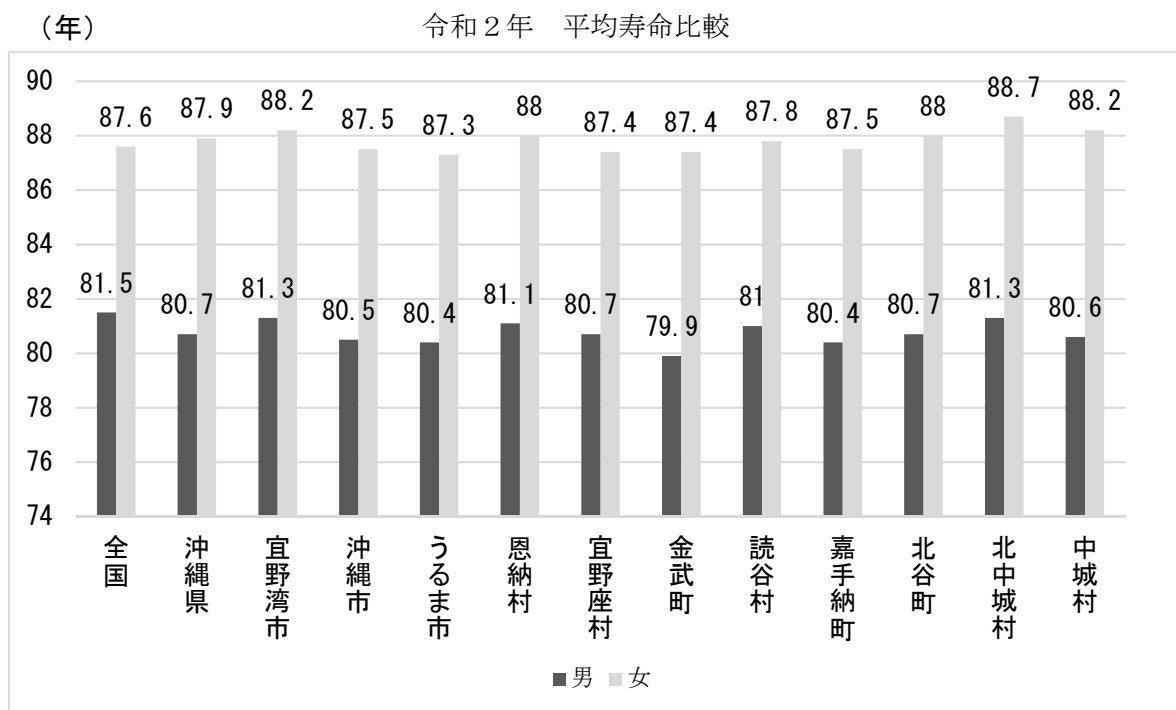


資料：国勢調査（令和2年）

② 近隣市町村との比較

本町の令和2年の平均寿命を近隣市町村と比較すると、男性は中部地区11市町村の中で金武町に次いで2番目に低くなります。

また、女性は中部地区11市町村の中では、うるま市、宜野座村、金武町に次いで4番目に低くなっています。



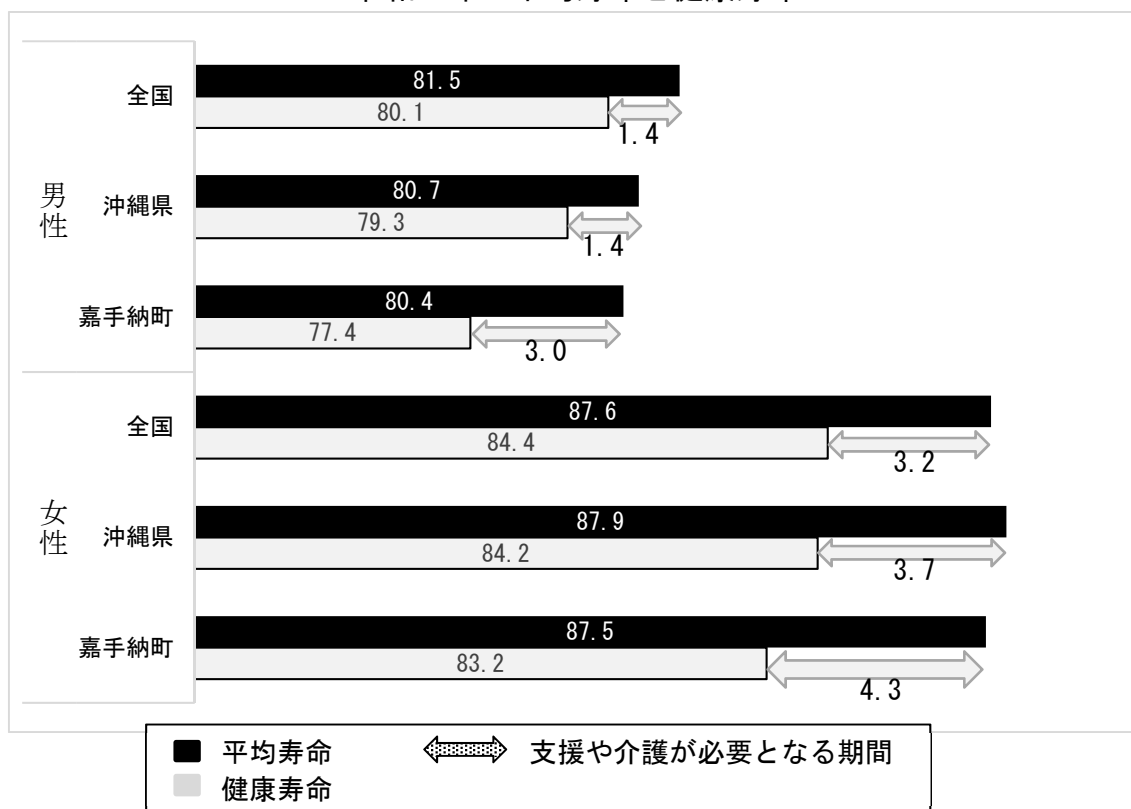
資料：令和2年市区町村別生命表

(12) 健康寿命

健康寿命とは、「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」で健康寿命の延伸は本計画の全体目標であり、各分野の取組みを総合的に推進することで達成されるものです。

本町の令和2年の健康寿命は、男性が77.4年、女性が83.2年です。

令和2年 平均寿命と健康寿命



資料：健康おきなわ 21HP

※嘉手納町の健康寿命は、「健康寿命の算定プログラム（厚生労働省）」を使用し算出

(13) 健診受診率

本町の特定健診受診率は、平成29年度から令和4年度まで増減を繰り返しながらも、全体として微減傾向となっています。

本町の令和4年度の受診率は、中部地区11市町村中、うるま市、沖縄市、北谷町、読谷村に次いで5番目に低い数値となっています。なお、県平均に対しては、0.9%上回っています。(県内41市町村中34位)

中部地区市町村別特定健診受診率（市町村国保）の推移

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
うるま市	36.9	35.9	26.3	26.3	28.9
沖縄市	34.8	35.9	26	28.9	31
宜野湾市	34	33.1	30.4	28.9	36
嘉手納町	39.1	42.8	31.7	35.4	35.3
金武町	40	38.7	35.9	37.7	38
北谷町	35.1	35.4	27.5	28.1	31.1
恩納村	46.4	52.4	50.8	44.9	44.3
北中城村	44.1	43.4	38.2	42.2	43.7
宜野座村	54.6	52.7	56.1	53.9	56.8
中城村	41.8	46.8	36.5	39.1	42.1
読谷村	41.5	40.8	31.1	25.8	33.6
沖縄県	39.3	38.6	32.1	32.8	34.4
全国	37.9	38	33.7	36.4	37.5

資料：嘉手納町

(14) 食文化

野國總管と甘藷

かつての沖縄は、1605（慶長10）年から1950（昭和25）年代までの約345年間の長きにわたって主食は甘藷（さつまいも）でした。水田の少ない沖縄で米を食したのは、ごく一部の有産階級に属する人々であり、一般庶民は朝昼晩の三度の主食は甘藷が中心でした。

その甘藷を我が国で初めて口にしたのは、かつての嘉手納（町）の地域に属した野国村の人々でした。それは、1605年中国から甘藷を野国村に伝え、甘藷大主と呼ばれた野國總管の出身地だったからです。姓は出身地の野國をとり、名は琉球と中国との交易船である進貢船の總管職（事務長職相当）の職名からとり「野國總管」と呼ばれました。いかにも偉人にふさわしい風格のある名前です。嘉手納町では、日本人の命の大恩人の偉業を後世に伝えるために、2005年には、『野國總管甘藷伝来400年祭』を盛大に挙行了しました。

甘藷と食生活

先述したように沖縄全域を含めて嘉手納町の伝統的な食文化といえば甘藷に尽きます。甘藷の食べ方は、大鍋に蒸して食べるのが一般的でした。蒸した芋を御膳に乗せ皮をむき、野菜汁と一緒に食べる。時たま豆腐とスクガラス（漬けの小魚）がつくと最高のご馳走でした。

甘藷ほど貴重な食物はありません。捨て去るところはなく、葉はおひたしにしたり、雑炊にして食べます。夏場は野菜かわりになります。皮と蒸した茎は豚の餌にします。甘藷と豚は持ちつ持たれつの関係にあり、沖縄で豚の飼育が多いのは甘藷を主食とするため栽培量が多く、人が食べない部分を豚の餌にできたからです。沖縄で肉料理を口にするのは、冠婚葬祭の時か、盆と正月の晴れの日に限られていました。肉といえば、豚が中心であり、ほとんどの家庭で甘藷を餌にして豚を飼育し、盆や正月などで漬けて食べる。自給自足の徹底した生活ぶりでした。沖縄の長寿は、「いもと豆腐づけの質素な食生活」が支えていたのかも知れません。

野國いも宣言

1605年、我が町の先達・野國總管によって中国福建省からもたらされた甘藷は、野國總管生誕の地・野國を発信基地として琉球の全ての村々へ、そして、薩摩を経て全国へと広まり、人々を餓えや飢饉から救い、全国民が等しくその恩恵に浴することになりました。今日、甘藷は未来を希求する健康食品として注目を浴びています。

甘藷伝来400年の節目を迎える2005年、野國總管の偉業を奉祝する「野

國總管甘藷伝来400年祭」が全町民の手により挙行されました。この慶賀を機に、我が国における甘藷発祥の地・嘉手納を全国に広く発信するとともに、野國總管を称え、甘藷を「野国いも」の愛称で呼ぶことを宣言しました。

2 令和5年度町民アンケート結果

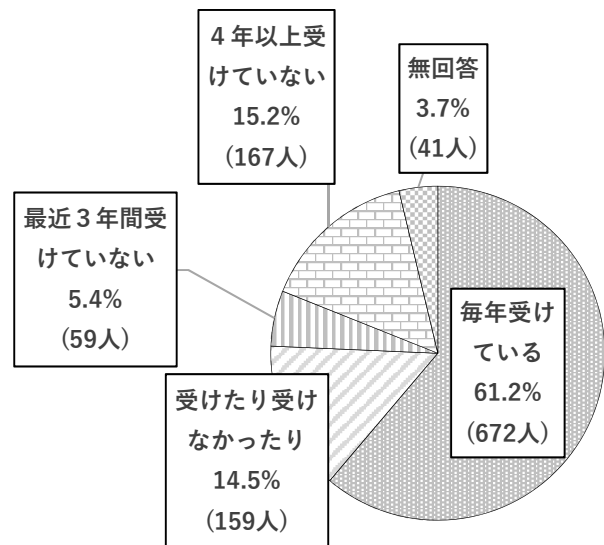
(1) 生活習慣病の発症予防・重症化予防

問. あなたは健康診査やがん検診を受けていますか。

健康診査の受診状況について、「毎年受けている」が61.2%で最も高くなっています。

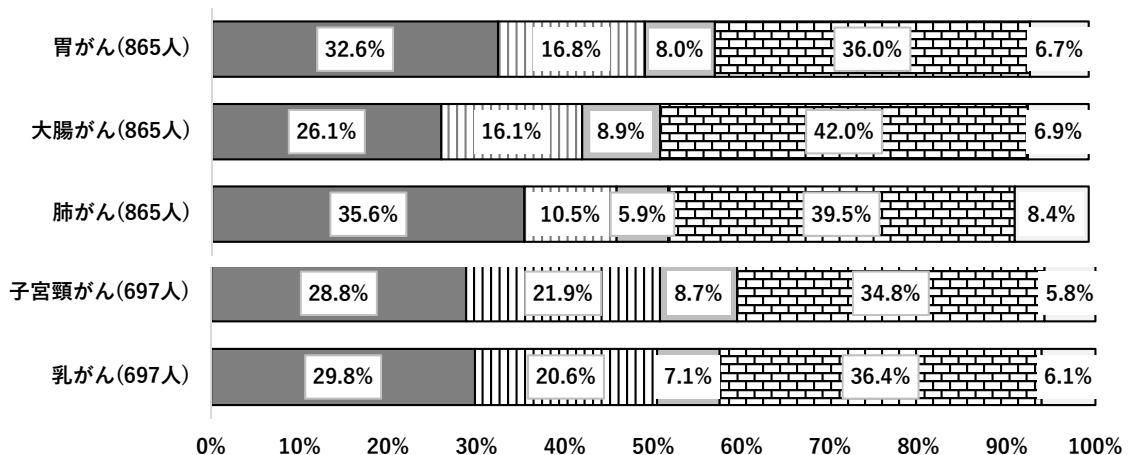
一方で、15.2%の人が「4年以上受けていない」と回答しています。

健康診査の受診状況 (1,098人)



また、各種がん検診の受診状況は、いずれも「4年以上受けていない」が最も高くなっており、30%を上回っています。

各種がん検診の受診状況



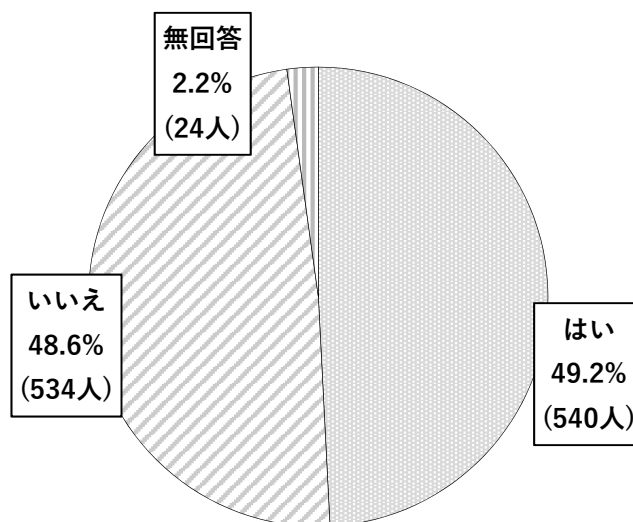
■ 1. 毎年受けている □ 2. 受けたり受けなかったり □ 3. 最近3年間受けていない
 □ 4. 4年以上受けていない □ 無回答

(2) 身体活動・運動

問. 適度な運動（30分以上継続し、汗ばむ程度）をしていますか。

適度な運動をしているかについては、「はい」が49.2%、「いいえ」が48.6%となります。

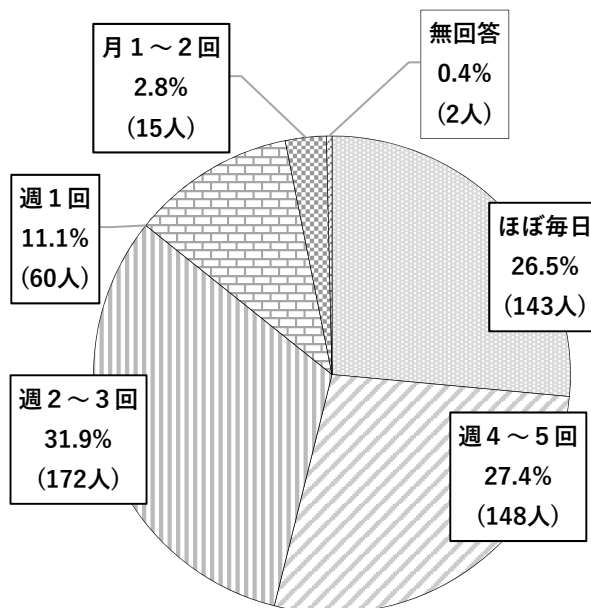
適度な運動の有無（1,098人）



問. どのくらいの頻度で運動していますか。（上記の問で「はい」と答えた人）

また、適度な運動をしていると回答した人を対象に、適度な運動の頻度についても調査を行いました。その結果、運動頻度は「週2～3回」が31.9%と最も高く、次いで「週4～5回」が27.4%、「ほぼ毎日」が26.5%となっており、適度な運動をしていると回答した人の多くが、週に複数回運動する習慣をもっています。

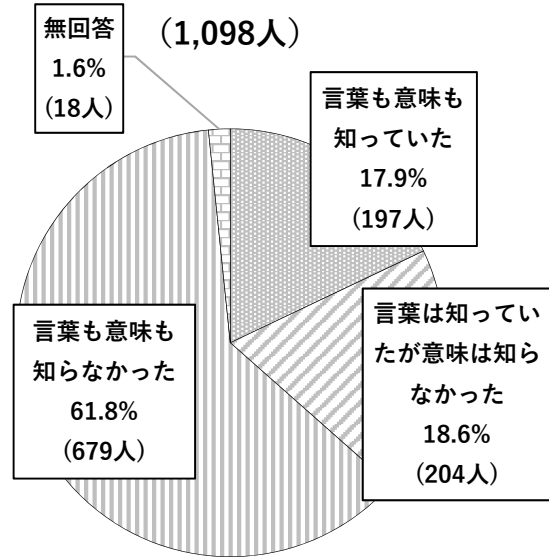
適度な運動の頻度（540人）



問. 「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）」を知っていますか。

ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度については、「言葉も意味も知らなかった」が61.8%を占めます。また、「言葉は知っていたが意味は知らなかった」が18.6%、「言葉も意味も知っていた」が17.9%となっています。

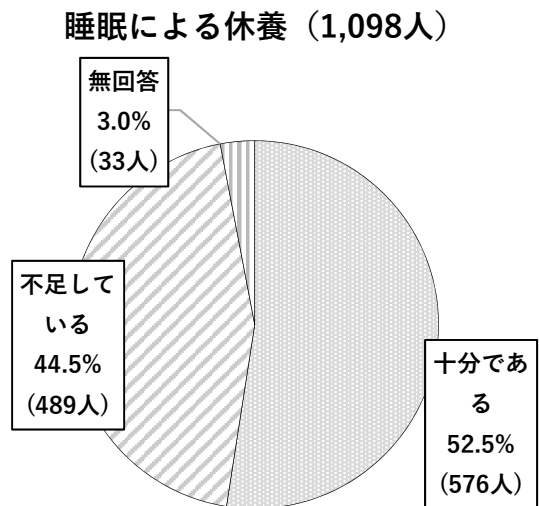
ロコモティブシンドロームの認知度



(3) 休養・心の健康

問. 睡眠によって十分な休養がとれていますか。

睡眠による休養については、「十分である」が52.5%、「不足している」が44.5%となります。



問. 平均睡眠時間はどの程度ですか。

睡眠時間について性別年齢層別に沖縄県平均のデータと比較すると、40歳代以降の女性は「6時間未満」と回答する割合が沖縄県平均を上回っています。

睡眠時間（沖縄県との比較）

		20歳代未満		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代	
		嘉手納町	沖縄県	嘉手納町	沖縄県	嘉手納町	沖縄県	嘉手納町	沖縄県	嘉手納町	沖縄県	嘉手納町	沖縄県
男性	総回答実数	27人		29人		26人		49人		69人		113人	
	6時間未満	14.8%	23.5%	20.7%	36.7%	42.3%	46.9%	42.9%	48.2%	34.8%	39.6%	30.1%	42.2%
	6時間以上9時間未満	85.2%	76.5%	79.3%	60.0%	57.7%	53.1%	55.1%	51.8%	65.2%	60.4%	69.0%	55.6%
	9時間以上	0.0%	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	2.2%
女性	総回答実数	22人		51人		72人		77人		85人		130人	
	6時間未満	22.7%	33.3%	21.6%	28.9%	31.9%	33.9%	37.7%	37.3%	50.6%	37.3%	50.0%	41.4%
	6時間以上9時間未満	72.7%	66.7%	74.5%	63.2%	68.1%	61.3%	61.0%	62.7%	49.4%	62.7%	50.0%	58.6%
	9時間以上	4.5%	0.0%	3.9%	7.9%	0.0%	4.8%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

問. あなたの周りには次のような人はいますか。

- ①会うと心が落ち着き安心できる人
- ②個人的な気持ちや悩みを打ち明けることができる人
- ③お互いの考えや将来のことなどを話し合う事のできる人
- ④あなたの行動や考えを理解し、応援してくれる人

「あなたの周りには次のような人はいますか。」という質問に対しては、下表の①～④のいずれも「いる」が70%以上と高い状況です。特に「④あなたの行動や考えを理解し、応援してくれる人」について「いる」と回答した割合は80.5%と最も高く、次いで「①会うと心が落ち着き安心できる人」について「いる」と回答した割合が78.3%になります。

周りにいる人（1,098人）

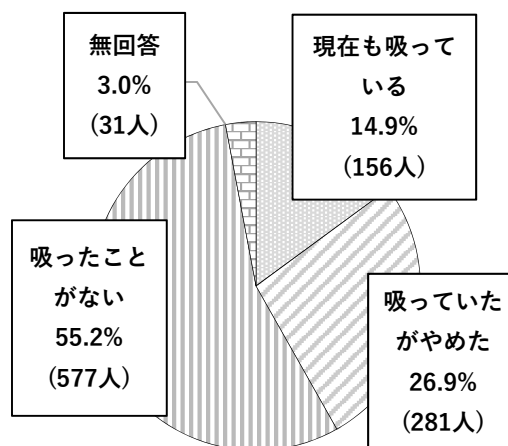
選択肢	いる	いない
①会うと心が落ち着き安心できる人	78.3% (860人)	17.9% (197人)
②個人的な気持ちや悩みを打ち明けることができる人	74.8% (821人)	21.2% (233人)
③お互いの考えや将来のことなどを話し合う事のできる人	74.8% (821人)	20.9% (229人)
④あなたの行動や考えを理解し、応援してくれる人	80.5% (884人)	14.8% (163人)

(4) 喫煙

問. 習慣的にたばこ（電子たばこや加熱式たばこも含む）を吸いますか。

喫煙状況については、「吸ったことがない」が55.2%と最も高く、次に「吸っていたがやめた」が26.9%、「現在も吸っている」が14.9%となります。

喫煙の有無（1,045人）

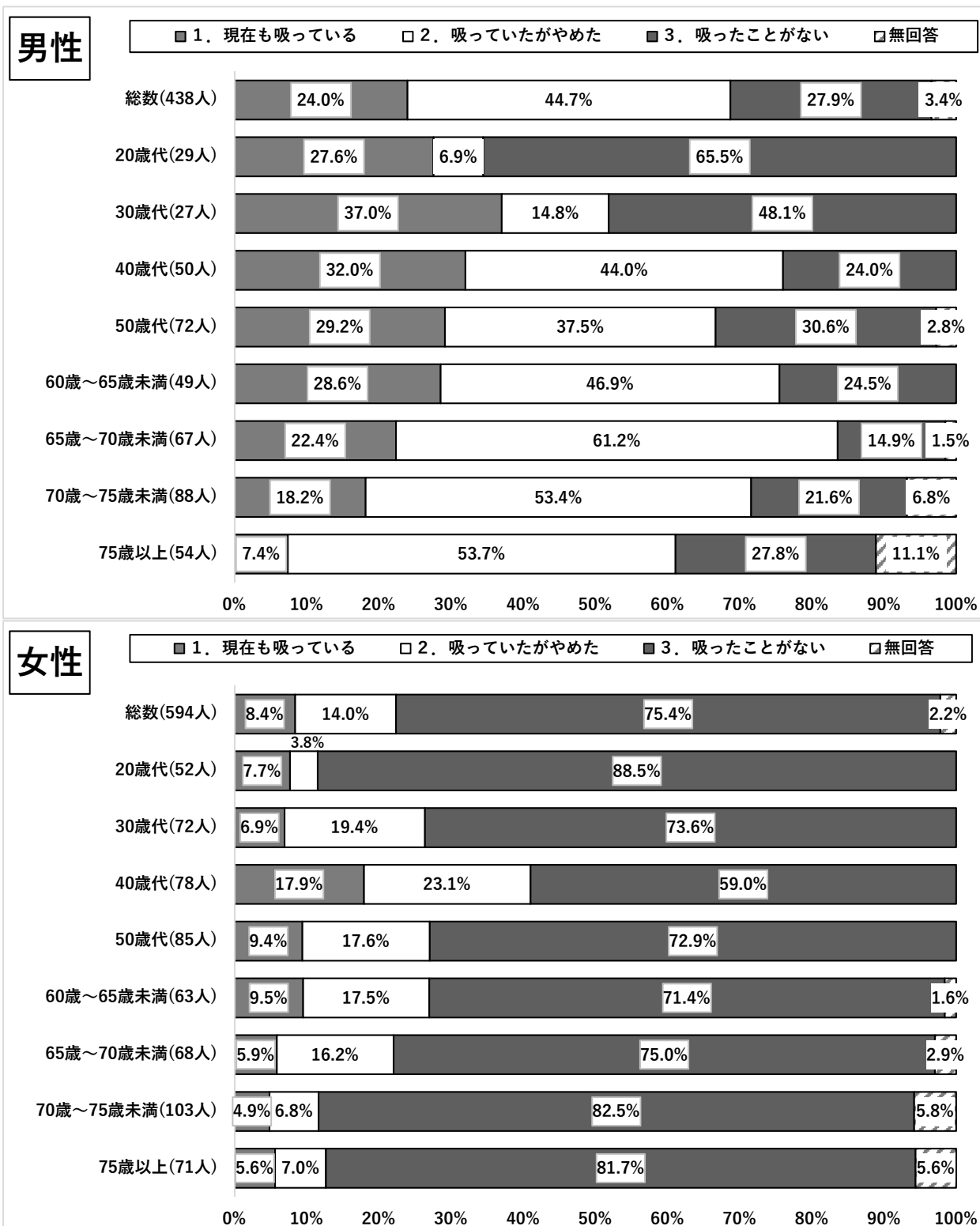


性別年齢層別の分析結果では、75歳未満の年代において男性は女性に比べ「現在も吸っている」と回答した割合が高く、2倍～6倍となっています。

男性の中で「現在も吸っている」と回答した割合が最も高いのは30歳代で、それ以降は上の年代になるにつれ割合が低下しています。

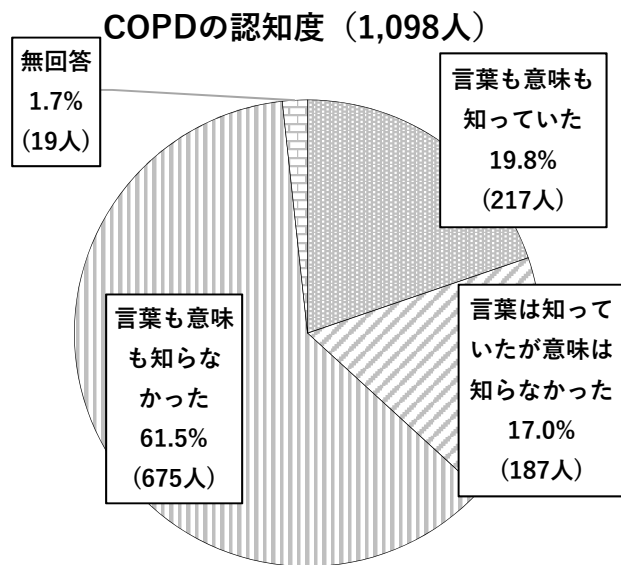
一方、女性はいずれの年代においても「吸ったことがない」と回答した人の割合が高く、40歳代以外の年代では7割を超えています。女性の40歳代では、「現在も吸っている（17.9%）」と「吸っていたがやめた（23.1%）」を合すると4割以上に喫煙の経験がありました。

喫煙の有無（性別年齢層別）



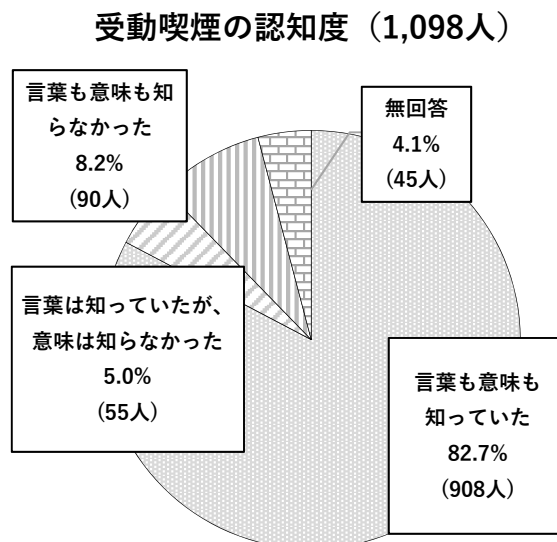
問. 「COPD（慢性閉塞性肺疾患）」を知っていますか。

COPD（慢性閉塞性肺疾患）の周知については、「言葉も意味も知らなかった」が61.5%を占めます。また、「言葉も意味も知っていた」が19.8%、「言葉は知っていたが意味は知らなかった」が17.0%、「言葉は知っていたが意味は知らなかった」が17.0%となります。



問. 「受動喫煙」という言葉やその意味を知っていましたか。

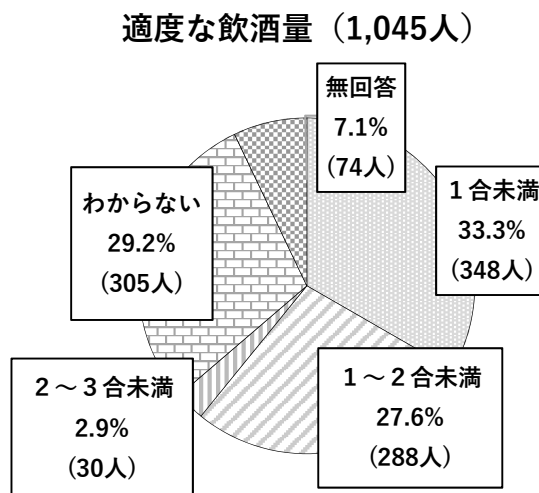
受動喫煙については、「言葉も意味も知っていた」が82.7%と最も高く、次に「言葉も意味も知らなかった」が8.2%、「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」が5.0%となります。



(5) 飲酒

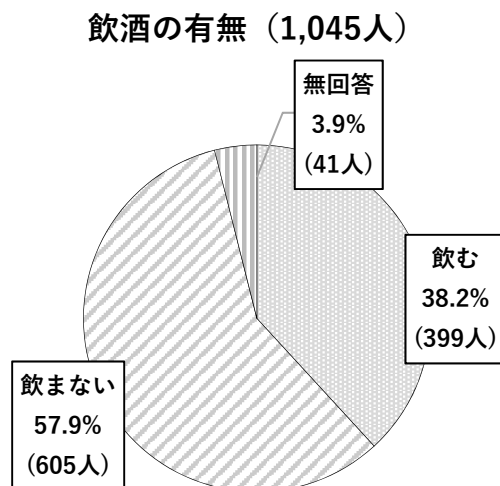
問. 「節度ある適度な飲酒」とは、日本酒に換算して1日にどのくらいの量だと思えますか。

適度だと思う飲酒量については、「1合未満」が33.3%と最も高く、次に「わからない」が29.2%、「1～2合未満」が27.6%となります。



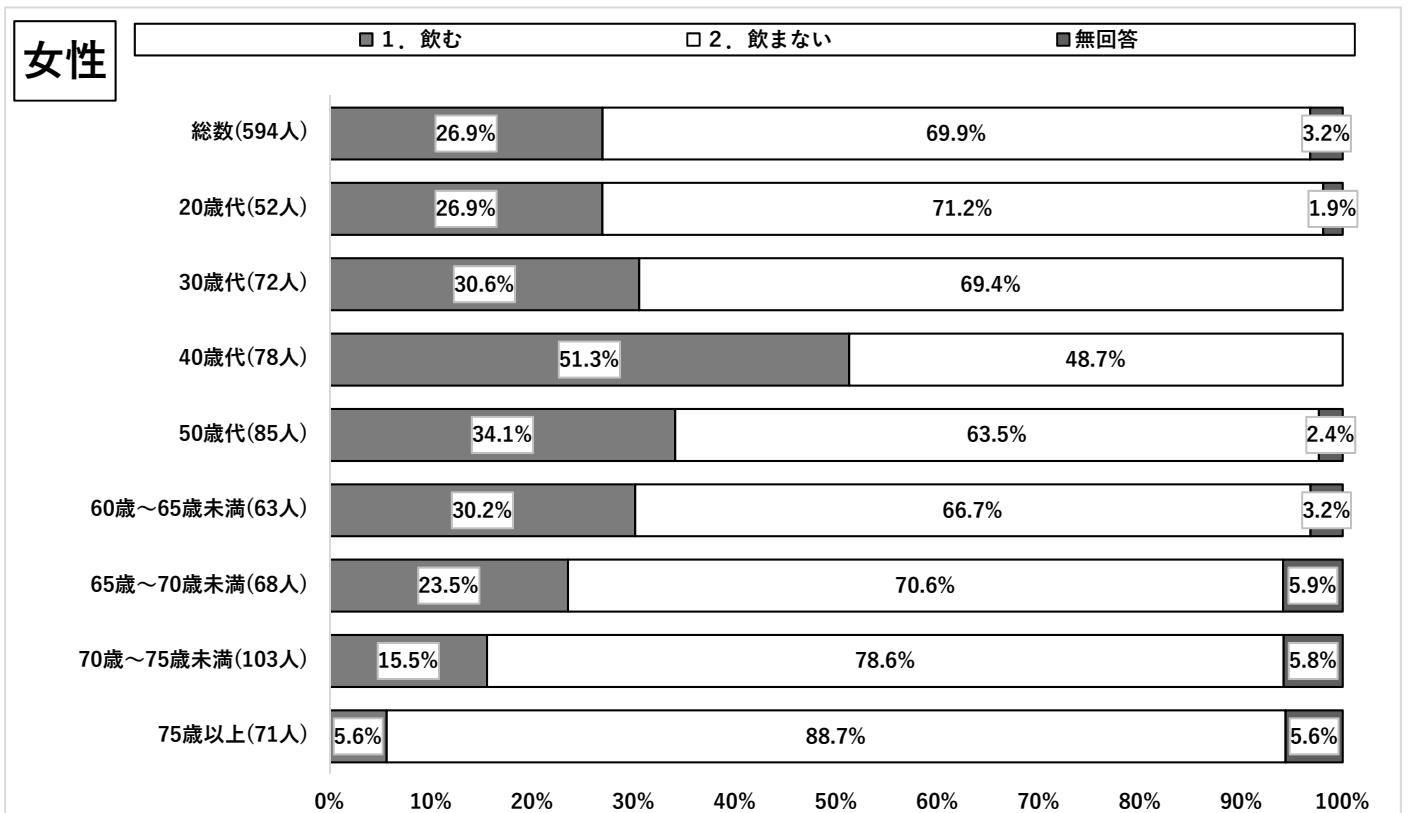
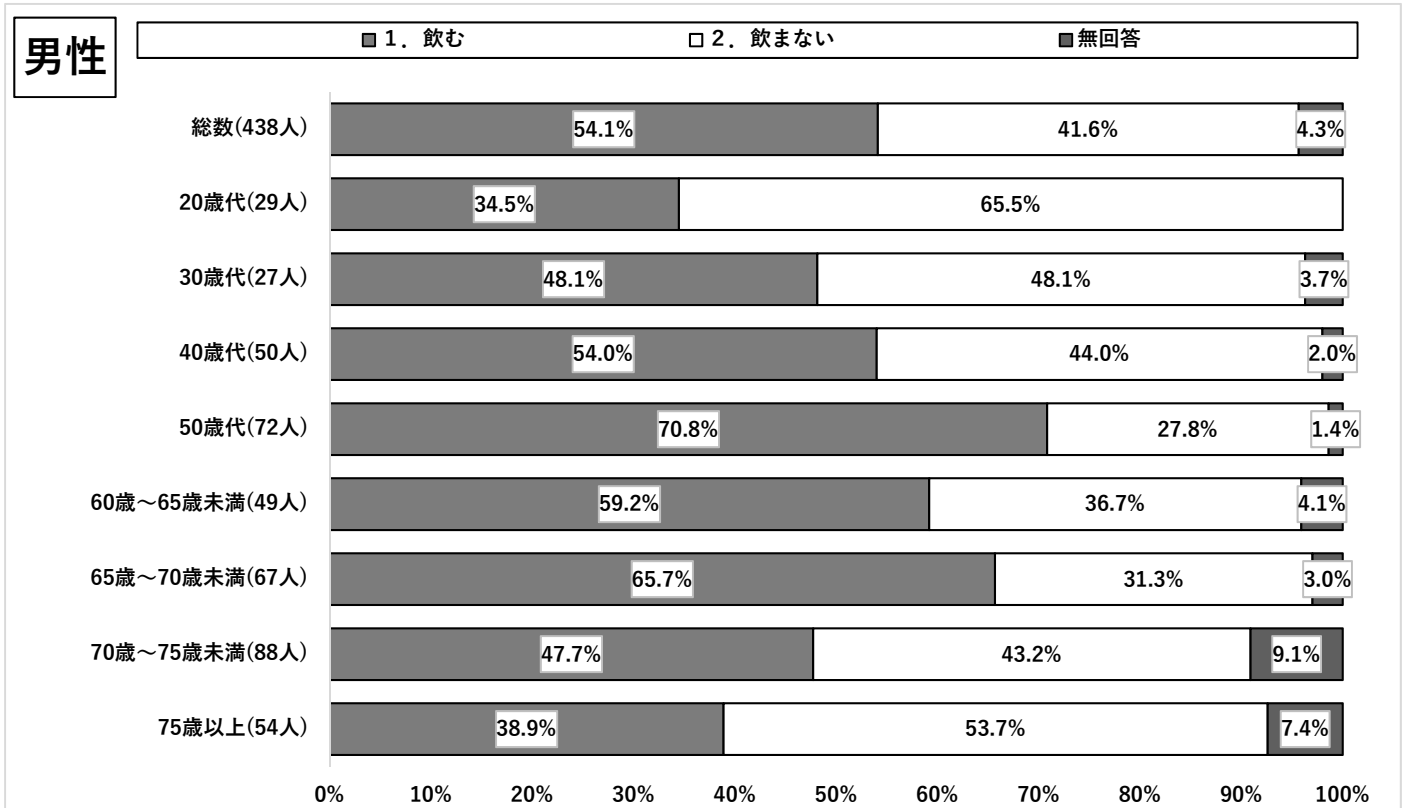
問. お酒を習慣的に飲みますか。

飲酒の有無については、「飲む」が38.2%、「飲まない」が57.9%となります。



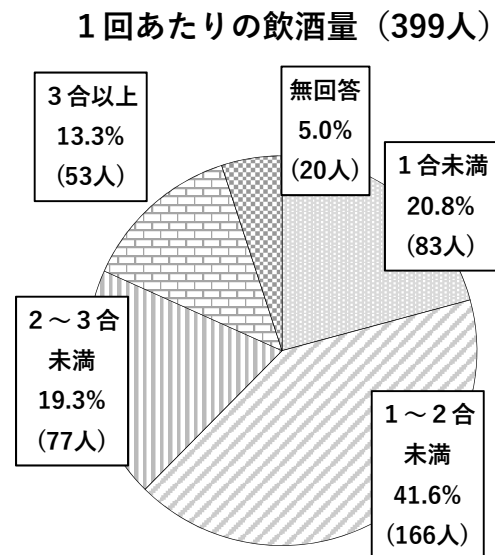
性別年齢層別の分析結果では、「飲む」と回答した男性は54.1%、女性は26.9%で、いずれの年代においても「飲む」と回答した人の割合は男性の方が女性より高くなっています。また、男性では「飲む」と回答した人の割合が50歳代から70歳未満において高くなっているのに対し、50歳以上の女性では上の年代になるにつれ「飲む」と回答した人の割合が低くなっています。

飲酒の有無（性別年齢層別）



問. 1回あたりの飲酒量をお答えください。※日本酒に換算(前問で「飲む」と答えた方)

飲酒の量については、「1～2合未満」が41.6%と最も高く、次に「1合未満」が20.8%、「2～3合未満」が19.3%となります。

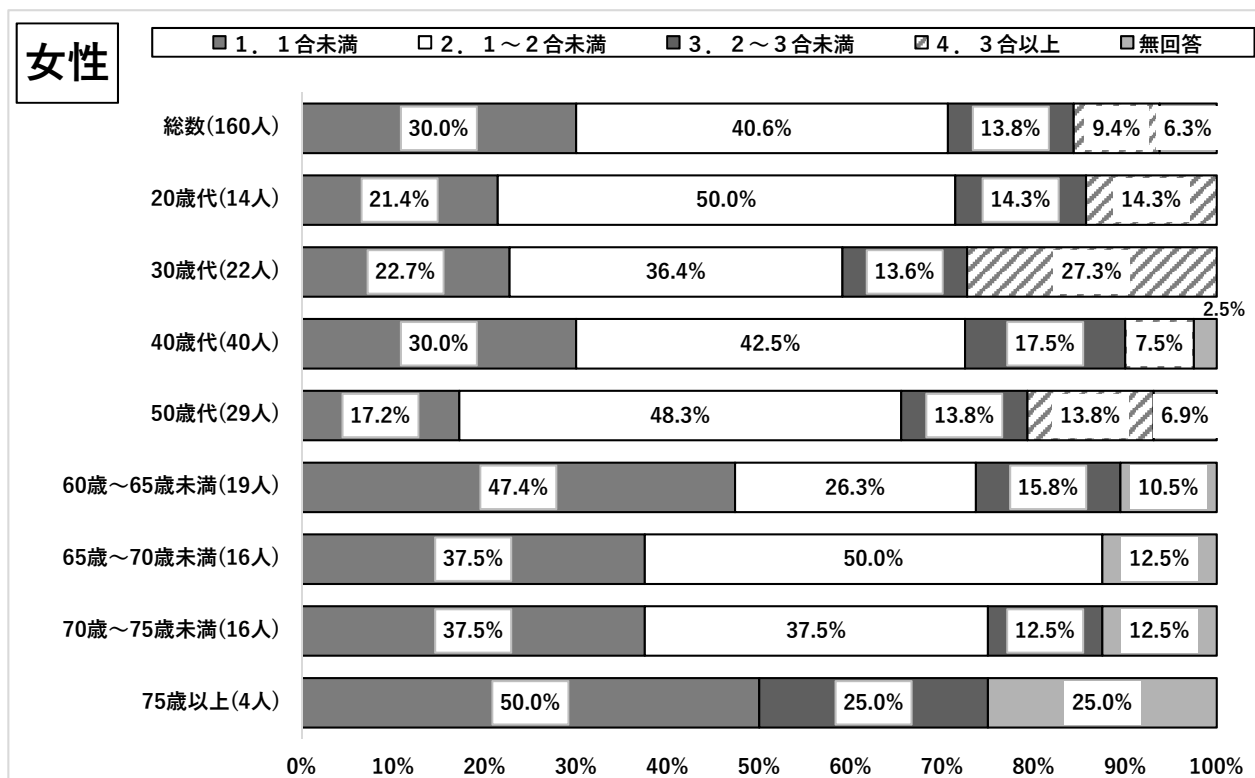
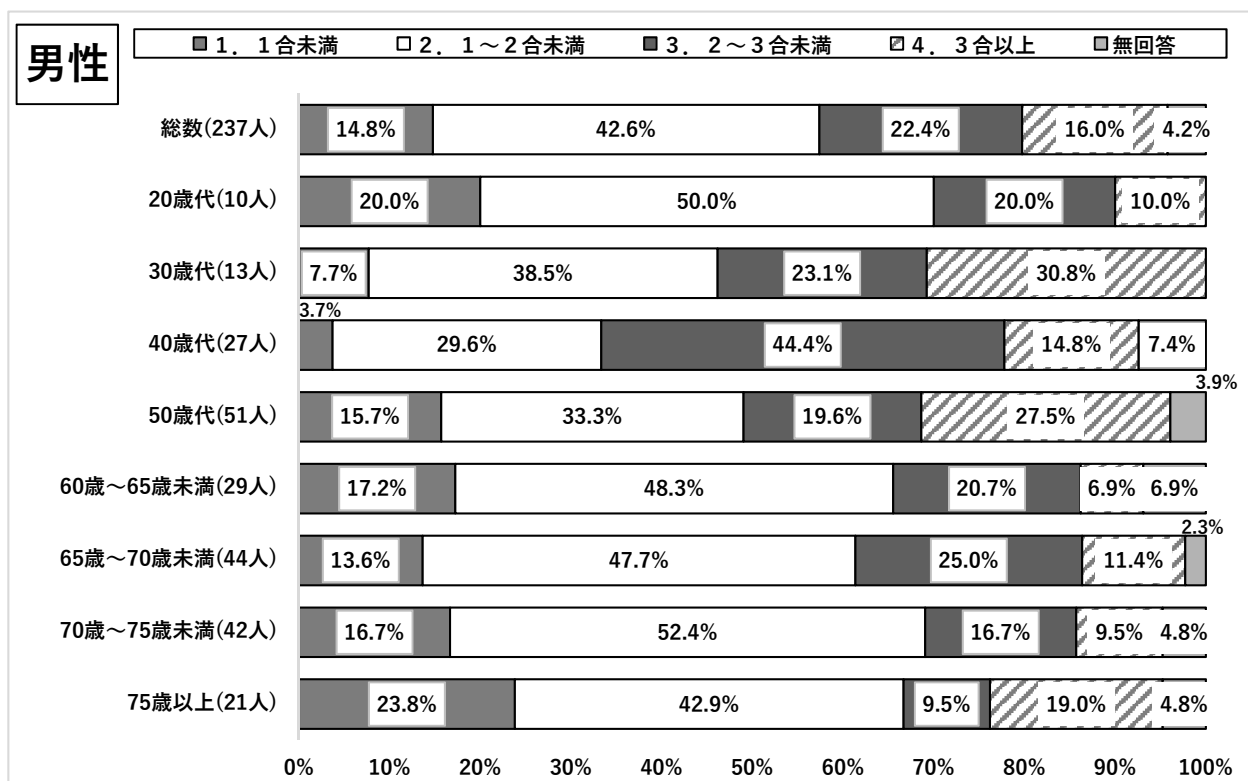


性別年齢層別の分析結果では、男性・女性ともにほとんどの年代において「1～2合未満」と回答した人の割合が最も高くなっていますが、男性の40歳代では、2～3合未満が最も高く、44.4%を占めていました。2番目に割合が高い回答は、40歳代を除く男性では「2～3合未満」、女性では「1合未満」となっている年代がほとんどです。

また、男性では40歳代において最も飲酒量が多く、女性では20歳代～50歳代は60歳以上の年代に比べ飲酒量が多い傾向があります。

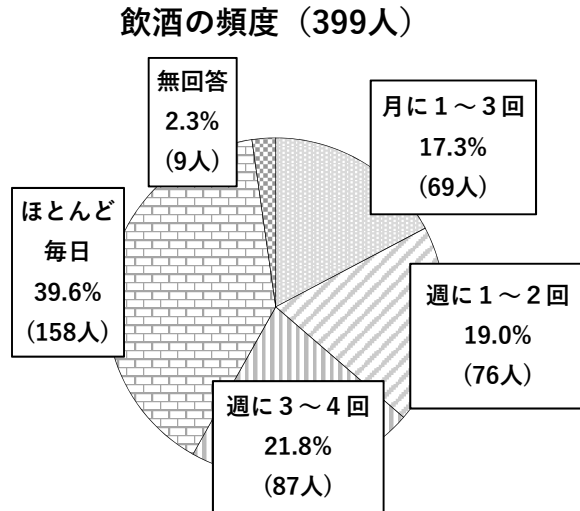
※「3合以上」は、調査票上の選択肢で「3合未満」と誤記載していたものを計上。

1回あたりの飲酒量（性別年齢層別）



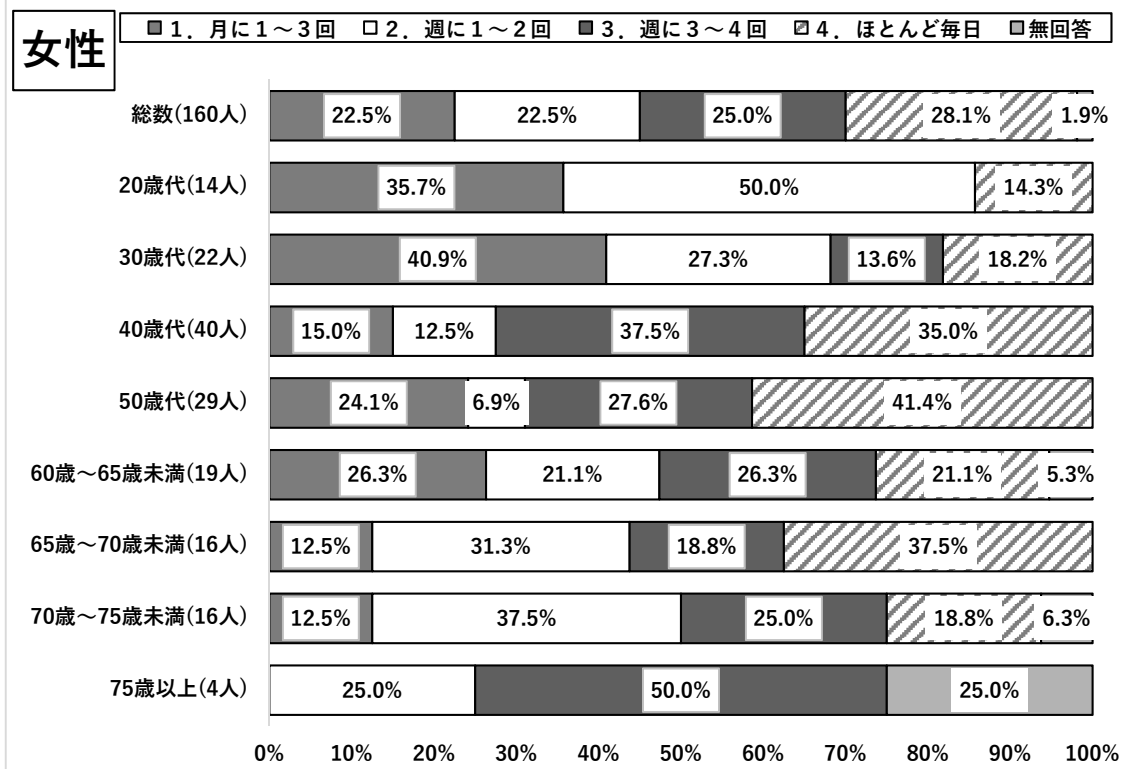
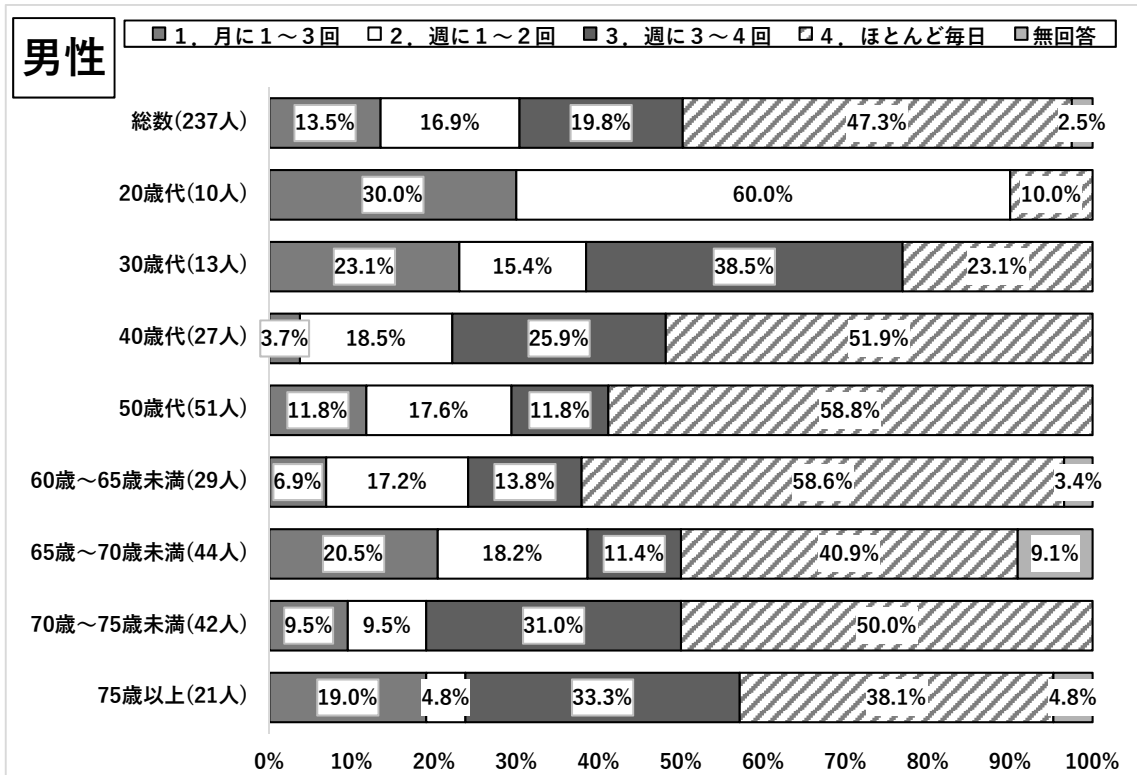
問. 飲酒頻度をお答えください。(前々問で「飲む」と答えた方)

飲酒の頻度については、「ほとんど毎日」が39.6%と最も高く、次に「週に3～4回」が21.8%、「週に1～2回」が19.0%となります。



性別年齢層別の分析結果では、40歳代から75歳未満の男性は約5割が「ほとんど毎日」と回答していました。女性では、40歳代～70歳未満において、3割～4割の人が「ほとんど毎日」と回答していました。女性及び男性の20歳代・30歳代は、「月に1～3回」または「週に1～2回」と回答した人の割合が高くなっています。

飲酒の頻度（性別年齢層別）

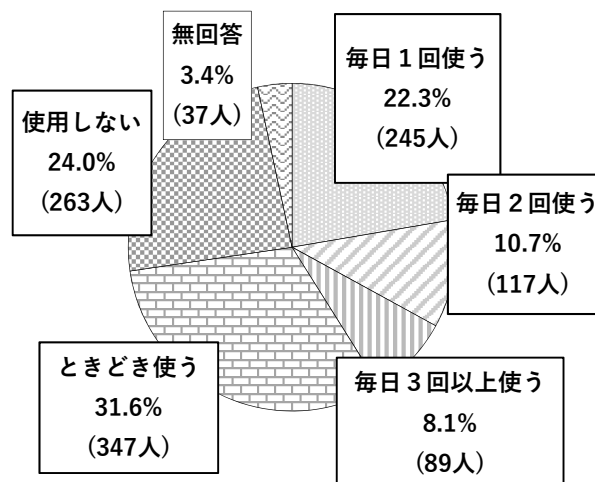


(6) 歯・口腔の健康

問. 歯や歯のすき間の手入れのために歯間ブラシやフロス（糸ようじ）などを使用していますか。

歯間ブラシやフロスの使用については、「ときどき使う」が31.6%と最も高く、次に「使用しない」が24.0%、「毎日1回使う」が22.3%となります。

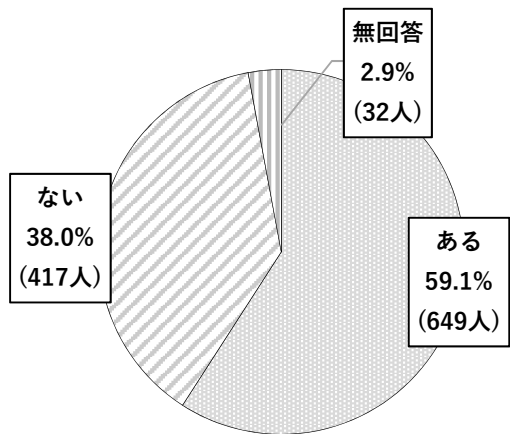
歯間ブラシやフロスの使用状況
(1,098人)



問. この1年間に歯科健診や歯の治療を受けたことがありますか。

歯科検診や歯の治療の1年以内の受診については、「ある」が59.1%、「ない」が38.0%となります。

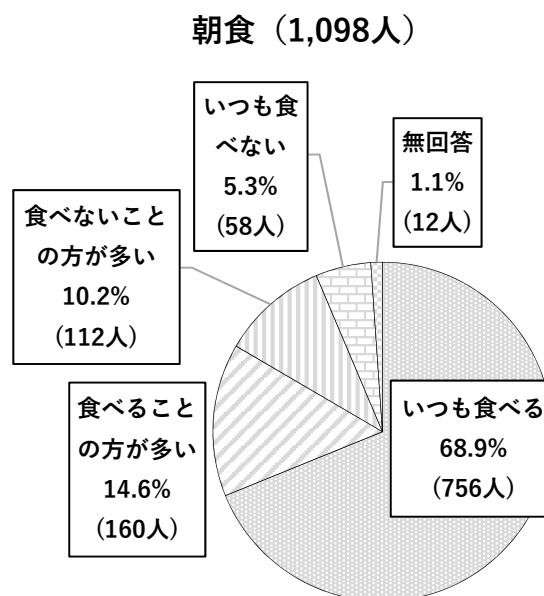
歯科健診・歯の治療の有無 (1,098人)



(7) 栄養・食生活

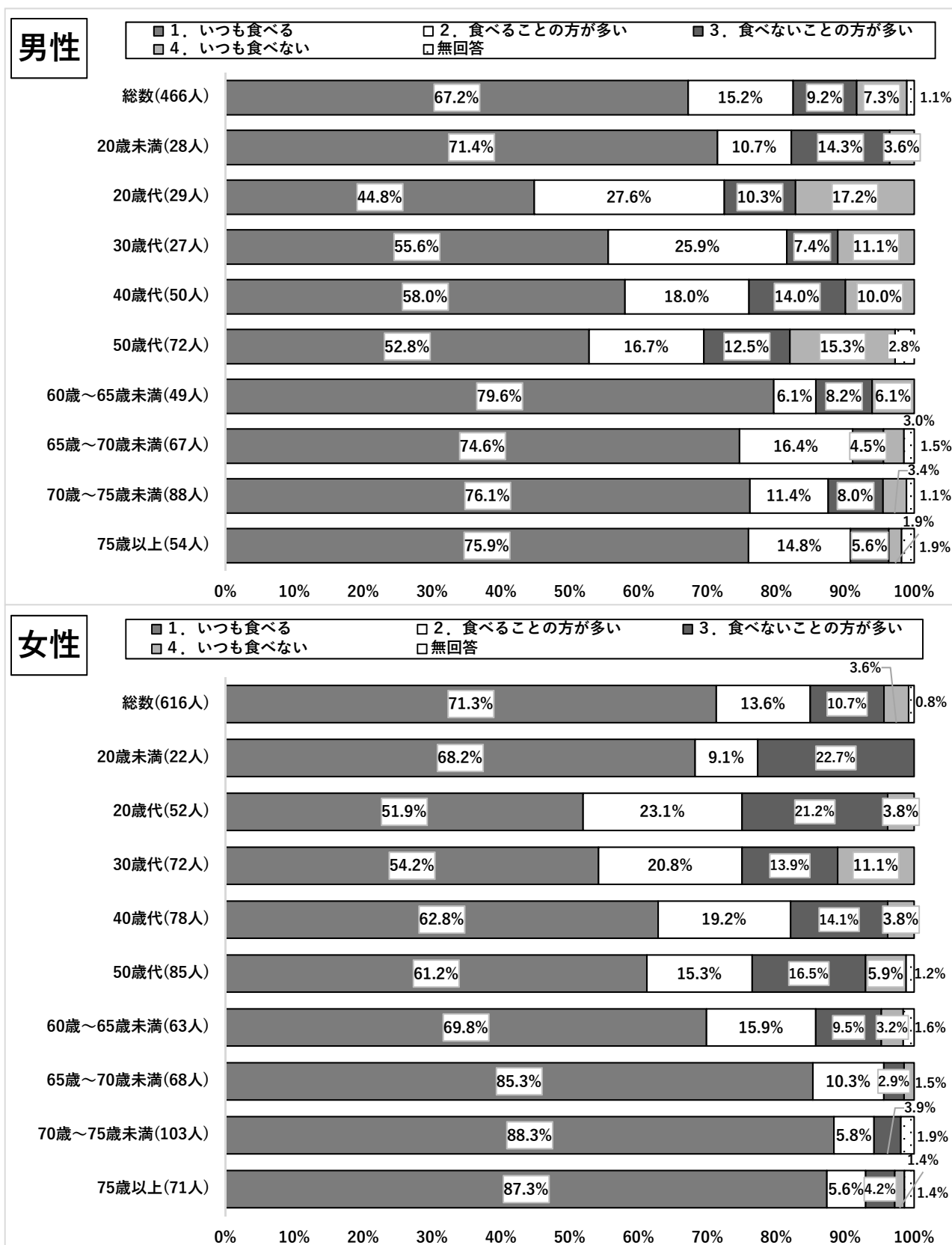
問. 朝食をいつも食べていますか。

朝食については、「いつも食べる」が68.9%と最も高く、次に「食べる方が多い」が14.6%、「食べないことの方が多い」が10.2%となります。



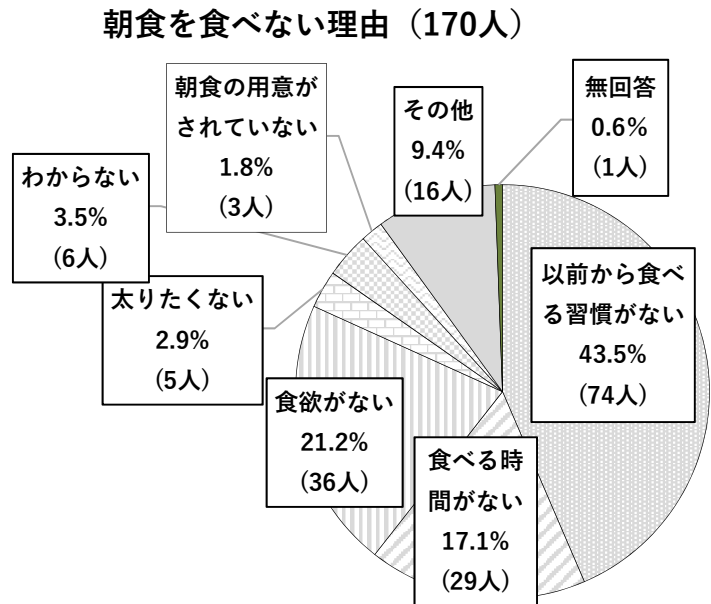
性別・年齢層別にみると、「いつも食べる」は、「20歳代」が男女ともに最も低く、「男性」は44.8%、「女性」は51.9%となります。また、いずれの性別も「30歳代」、「40歳代」、「50歳代」についても約50%~60%程度と割合は低く、「60歳~65歳未満」以上になると、「いつも食べる」の割合が約70%以上に高くなります。

朝食（性別年齢層別）



問. 朝食を食べない主な理由をお答えください。(前問で「食べないことの方が多い」「いつも食べない」と答えた方)

朝食を食べない理由としては、「以前から食べる習慣がない」が43.5%と最も高く、次に「食欲がない」が21.2%、「食べる時間がない」が17.1%となります。

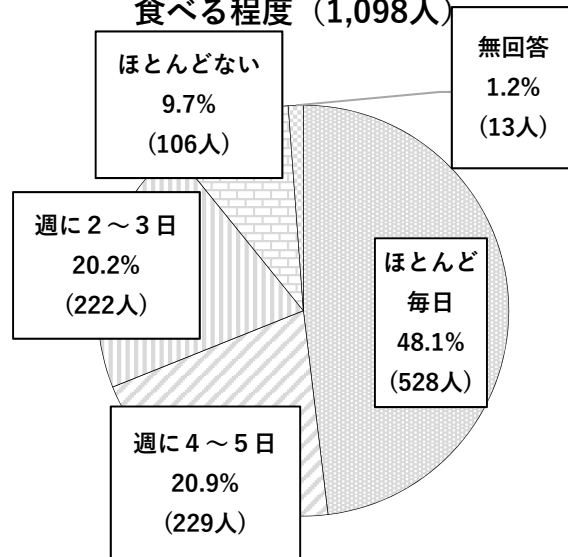


問. 1日の中で2回以上主食・主菜・副菜の3つをそろえて食べている日は、週に何日ありますか。

主食の例：ごはん、麺、パン等。主菜の例：焼き魚、目玉焼き、ハンバーグ等。副菜の例：野菜の煮物、あえ物、お浸し、サラダ等。

主食・主菜・副菜を3つ揃えて食べる頻度については、「ほとんど毎日」が48.1%と最も高く、これに「週に4～5日」の20.9%を合わせると、少なくとも週4日以上が69.0%となります。

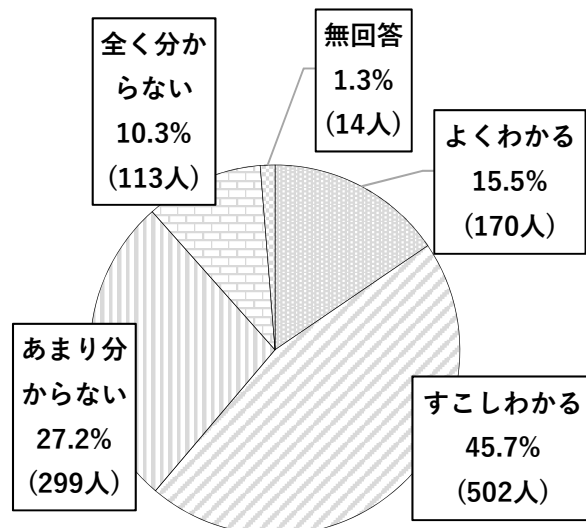
主食・主菜・副菜を3つ揃えて食べる程度 (1,098人)



問. 健康を維持するために、自分に適した1食の量とバランスがわかりますか。

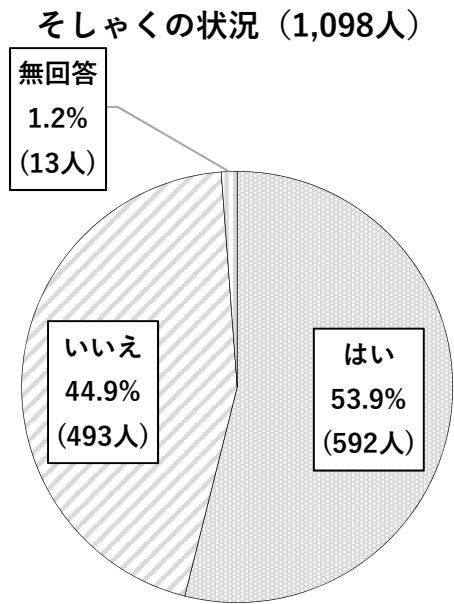
自分に適した1食の量とバランスについては、「すこしわかる」が45.7%で、これに「よくわかる」の15.5%を合わせると、61.2%となります。

バランスの良い食事 (1,098人)



問. よく噛んでゆっくり食べていますか。

よく噛んでゆっくり食べてることについては、「はい」が53.9%、「いいえ」が44.9%で、「はい」が多くなります。



問. あなたの身長・体重を教えてください。

※BMI

BMI は Body Mass Index (肥満指数)の略です。肥満の判定は、下式の身長と体重から計算される BMI という数値で行われています。

$$\text{BMI} = \text{体重(kg)} / (\text{身長(m)} \times \text{身長(m)})$$

日本肥満学会が決めた判定基準では、統計的に最も病気にかかりにくい BMI22 を標準とし、25 以上を肥満として肥満度を 4 つの段階に分けています。

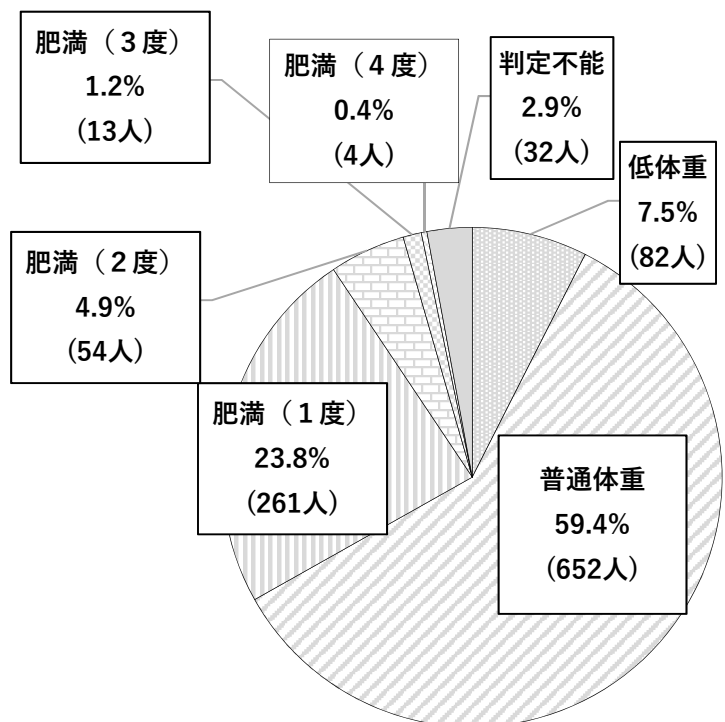
肥満度の判定基準 (日本肥満学会)

判定		BMI
低体重 (やせ)		18.5 未満
普通体重		18.5 以上 25 未満
肥満	1 度	25 以上 30 未満
	2 度	30 以上 35 未満
	3 度	35 以上 40 未満
	4 度	40 以上

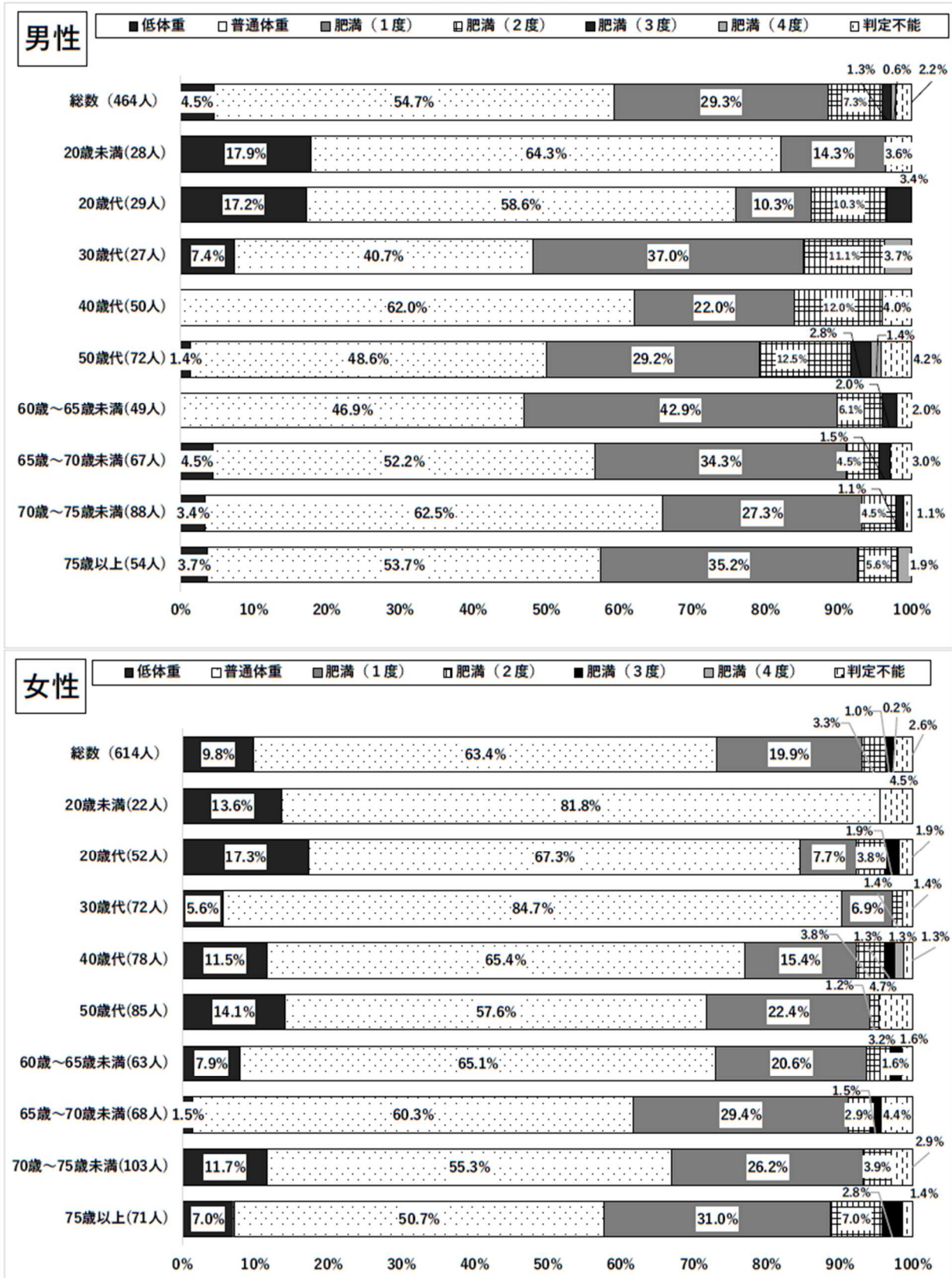
BMI (肥満指数) については、「普通体重」が 59.4% と最も高く、BMI 25 以上の「肥満」が計 30.2%、BMI 18.5 未満の「低体重」が 7.5% となります。

性別・年齢層別にみると、「男性」は 30 歳代以上のどの年齢層でも BMI 25 以上の「肥満」の割合が高く、30 歳代以上では最も低い「40 歳代」でも 34.0% となっています。「女性」は「20 歳未満」では「肥満」の割合は 0.0% ですが、年齢層が高くなるほど肥満の割合は高くなる傾向にあり、「75 歳以上」では 40.8% となります。

BMI (1,098人)

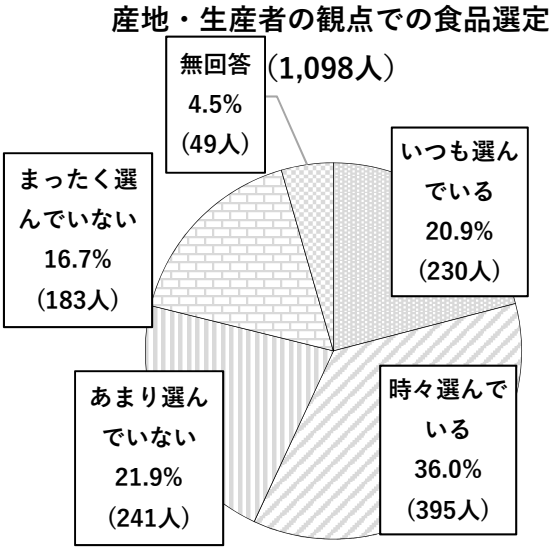


BMI (性別年齢層別)



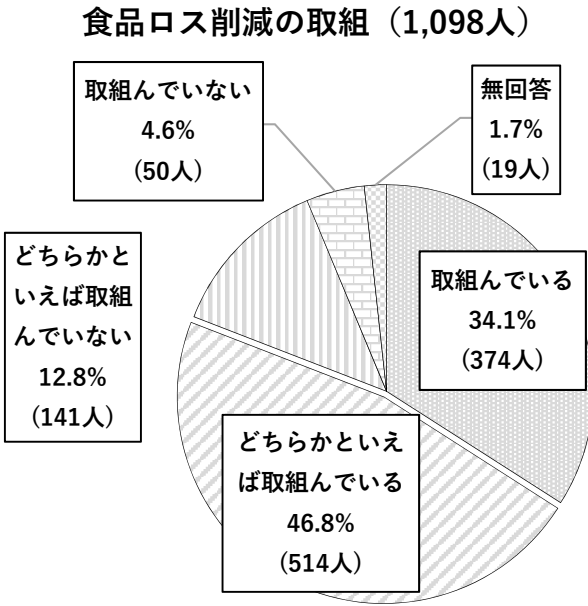
問. 産地・生産者の観点で農林水産物・食品を選んでいきますか。

産地・生産者の観点での食品選定については、「時々選んでいる」が36.0%と最も高く、次に「あまり選んでいない」が21.9%となります。



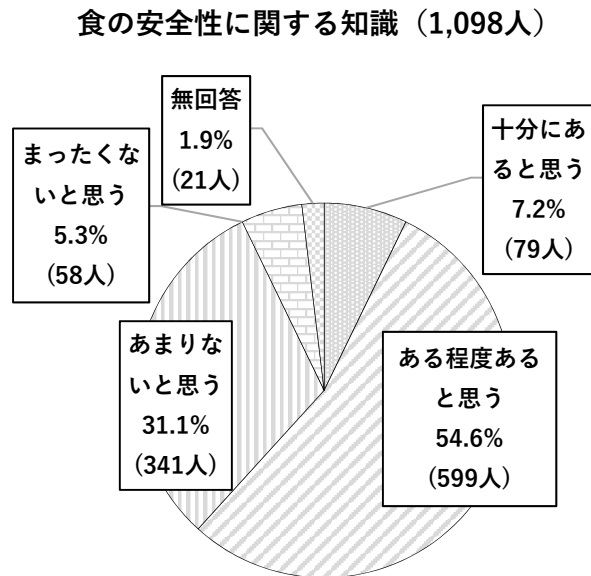
問. 食べ残しを減らすなど食品ロス削減のために意識して取り組んでいますか。

食品ロス削減の取組については、「どちらかといえば取組んでいる」が46.8%と最も高く、次に「取組んでいる」が34.1%となります。



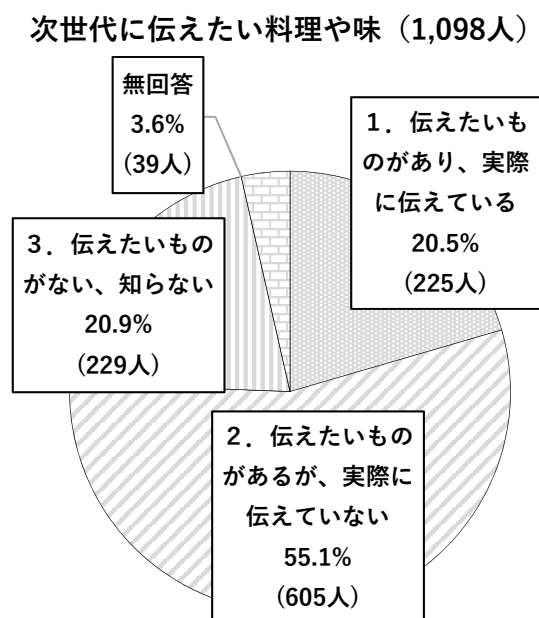
問. 安全な食生活を送るための、食品の安全性に関する基礎的な知識があると思いますか。

食の安全性に関する知識については、「ある程度あると思う」が54.6%と最も高く、次に「あまりないと思う」が31.1%となります。



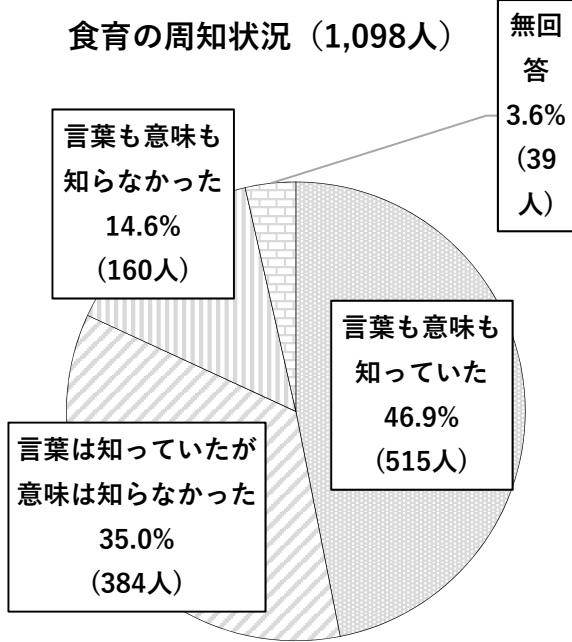
問. 郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味で、次世代に伝えたいものがありますか。また、実際に伝えていきますか。

次世代に伝えたい料理や味については、「伝えたいものがあるが、実際に伝えていない」が55.1%と最も高く、次に「伝えたいものがない、知らない」が20.9%となります。



問. 「食育」という言葉やその意味を知っていましたか。

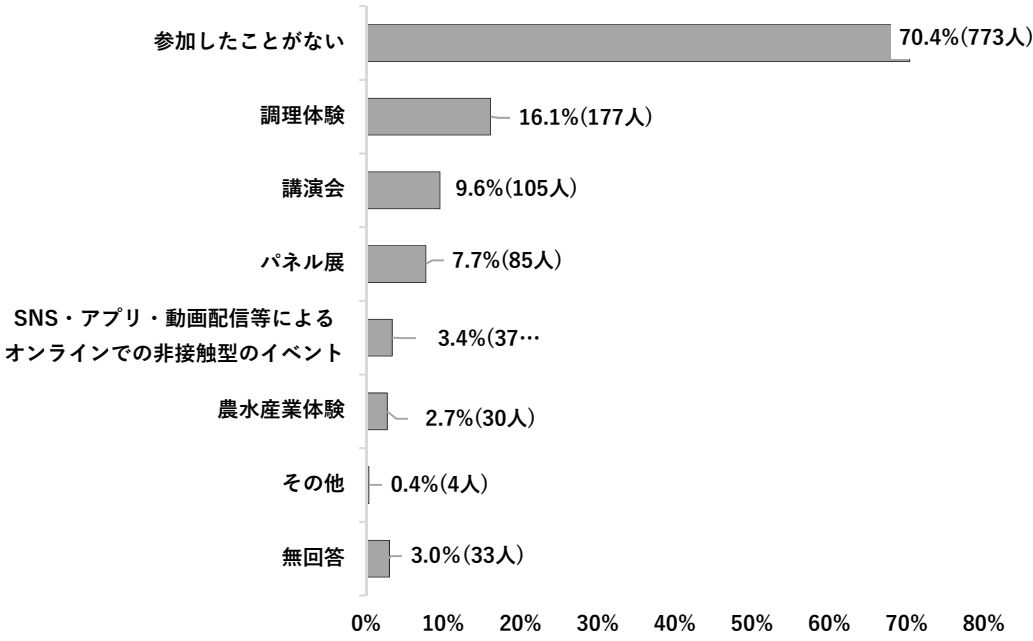
「食育」の周知度については、「言葉も意味も知っていた」が46.9%と最も高く、「言葉も意味も知らなかった」が14.6%と最も低くなります。



問. あなた、またはあなたの家族の中で参加したことがある食育イベントは、どのようなものがありますか。 ※町以外のイベントも含みます。

食育イベントについては、「参加したことがない」が70.4%と最も高く、次に「調理体験」が16.1%、「講演会」が9.6%となります。
※複数回答につき、割合の合計が100%を超える場合があります。

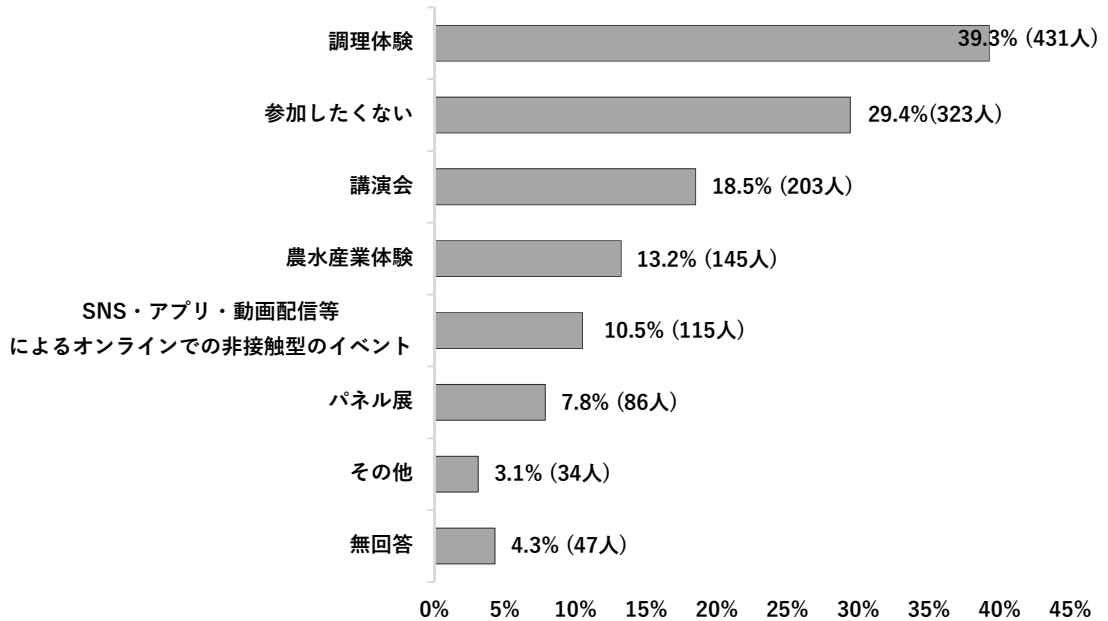
食育イベントの参加状況 (1,098人)



問. あなたは、どのような食育イベントに参加したいと感じますか。

参加したい食育イベントについては、「調理体験」が39.3%と最も高く、次に「参加したくない」が29.4%、「講演会」が18.5%となります。
※複数回答につき、割合の合計が100%を超える場合があります。

食育イベントの参加希望 (1,098人)



問. 町内で食育ボランティア活動をしている「嘉手納町食生活改善推進協議会（通称「食改（しょっかい）さん）」を知っていますか。

「食改さん」については、「知っている」が17.6%、「知らない」が80.7%となります。

「食改さん」の認知度

(1,098人)

